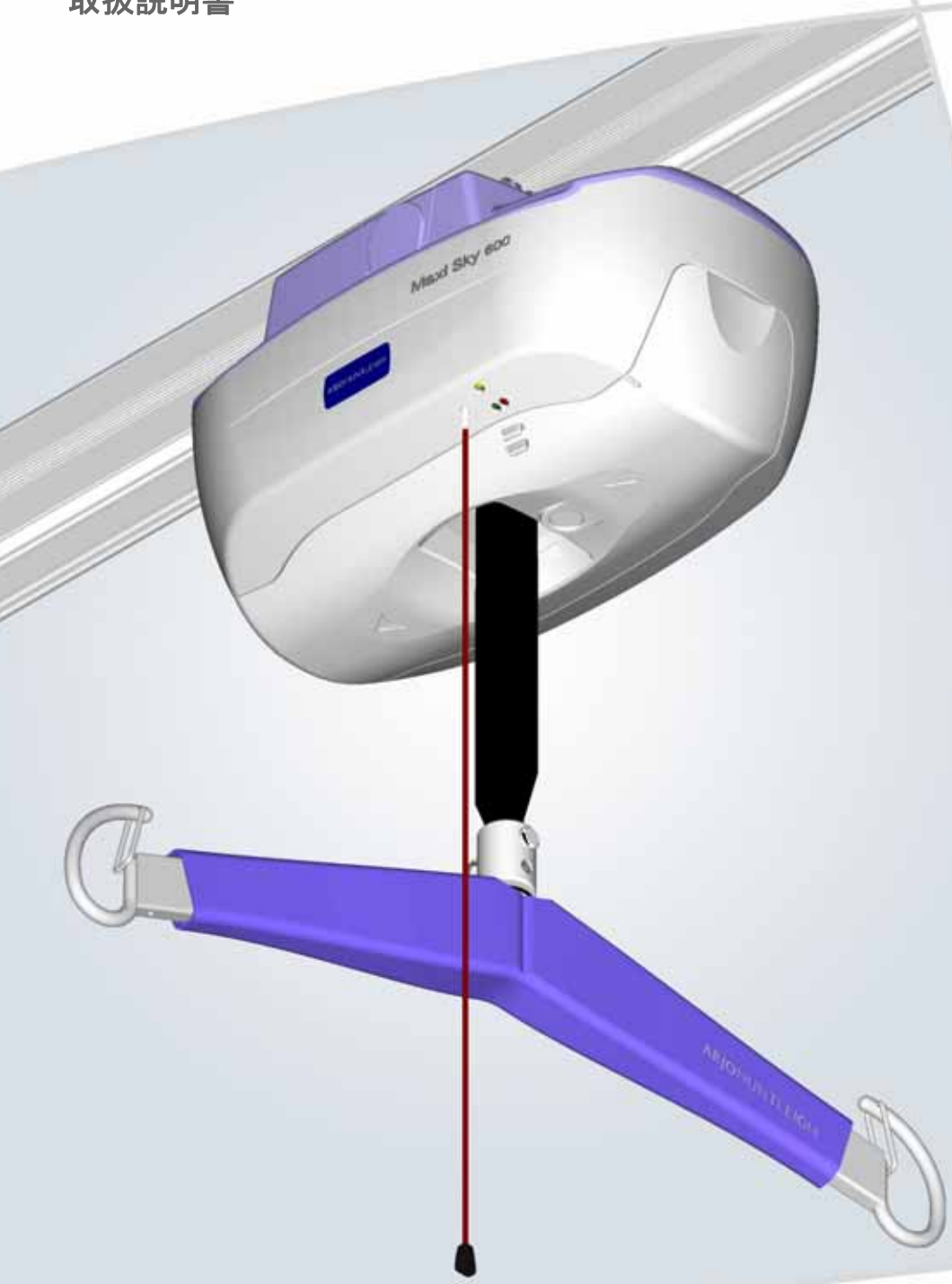
ARJOHUNTLEIGH
GETINGE GROUP

Maxi Sky 600、*Maxi Sky 600* ECS

取扱説明書



CE

001.14150.33.JP rev. 16 • August 2016

...with people in mind

設計・デザインの方針と著作権

® および ™ は、ArjoHuntleigh 企業グループに属する商標です。

© ArjoHuntleigh 2014.

継続的改善は当社方針の一つであるため、当社では事前の通知なしに設計・デザインを変更する権利を留保しています。

本取扱説明書の内容の全部または一部を ArjoHuntleigh の同意なしに複写することはできません。

目次

一般情報 5
はじめに 5
サービスおよびサポート 5
製造元情報 5
この取扱説明書で使用する定義： 6
使用目的 6
想定製品寿命 6
この取扱説明書の使い方 6
使用されている記号 7
頭字語の定義 7
安全に関する注意事項 8
一般的な注意事項 8
KWIKtrak 以外のレールシステムに関する追加情報 8
安全耐荷重 8
安全に関する重要事項 8
感電防止 9
防火および防爆 9
人と環境の安全対策 9
バッテリーと充電器の安全対策 9
在宅環境に関する注意事項 9
製品の説明 10
KWIKtrak システムにおける Maxi Sky 600 リフトと充電ステーション 10
手元スイッチ 11
ECS レールシステム 11
充電器 11
過負荷保護装置 11
バッテリー情報 11
付属品 12
Maxi Sky 600 リフトの使い方 13
操作方法と機能 13
緊急下降 13
緊急停止（赤のコード） 13
充電復帰（RTC）、ホームへの復帰（RTH） 14
緊急ブレーキ 14
インジケーターランプ 14
スプレッダーバーの取付具 14
クリップスリングの用途 15
クリップスリングの互換性 15
スリングの選択 16
DPS の操作 16
PDPS の操作 16
DPS/PDPS へのスリングの取り付け 17
DPS/PDPS からのスリングの取り外し 17
クリップスリングを用いた患者移乗 17
座位姿勢からの患者の持ち上げ 18
座位姿勢への患者の下降 18
仰臥位姿勢からの患者の持ち上げ 19
仰臥位姿勢への患者の下降 20
ループスリングの用途 21
ループスリングの互換性 21
スリングの選択 22
スプレッダーバーへのスリングの取り付け 22

001.14150.33.JP rev. 16

目次

患者の位置決め 22
取り付け方法 23
ループスリングを用いた患者移乗 24
座位姿勢からの患者の持ち上げ 24
座位姿勢への患者の下降 25
仰臥位姿勢からの患者の持ち上げ 25
仰臥位姿勢への患者の下降 25
ストレッチャーフレームとストレッチャーの使用 25
付属品の使用方法 26
エクスチェンジャーの使い方 26
ターテーブルの使い方 26
ゲートの使い方 27
PPP 機能の使用（事前プログラム位置） 27
Maxi Sky 600 天井走行リフトのプログラム設定 28
動作速度の変更 28
スプレッダーバーの高さ調整 29
充電復帰（RTC）機能の有効化と無効化 30
保守・点検 31
予防保守計画 31
ユーザー点検 31
有資格技術者による点検 32
本リフトの洗浄 34
ストラップの点検 35
取り扱いと保管方法 35
バッテリー交換 35
スリングの点検と管理 35
定期点検 35
スリングの洗浄 35
年次点検 35
トラブルシューティング 36
本製品上のラベル 38
技術仕様 39
リフト寸法 40
電磁環境両立性 41
電磁環境適合性 41
電磁放射線 41
電磁環境耐性 42

この度は Maxi Sky® 600 を ArjoHuntleigh からお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

この *Maxi Sky 600* リフトは、特に在宅、介護施設および他のヘルスケア用途に設計された高品質製品群の一部です。

当社はお客様のニーズにお応えすることに専念しており、最高の製品とともに、お客様の職員が ArjoHuntleigh 製品から最大のメリットを引き出せるよう、製品トレーニングもご提供しております。

はじめに

この *Maxi Sky 600* リフトを使用する前に、この取扱説明書をよくお読みください。この取扱説明書の情報は、本 *Maxi Sky 600* の適切な使用と保守に関して必要不可欠です。これは、この製品の保護に役立つばかりでなく、満足できる性能を確保する上にも有用です。人の持ち上げ動作と移乗には常に危険が伴います。この取扱説明書には、安全関連情報が含まれていますので、怪我を防ぐため、よく読んで理解してください。

警告：ArjoHuntleigh は、不適切な部品の使用に起因する可能性がある怪我を避けるため、ArjoHuntleigh が供給する製品および他のアプライアンスには、ArjoHuntleigh が指定する部品だけを使用する必要があることを勧告し警告いたします。

すべての ArjoHuntleigh 製品に加えられる不正な変更・修正は、その安全性を損なう恐れがあります。ArjoHuntleigh は、その製品に加えられた不正な変更・修正の結果として生じるすべての事故、事件または製品の不具合について一切責任をおいません。

CSA 規格に基づいてテストされています。

サービスおよびサポート

この *Maxi Sky 600* リフトの定期的な点検整備は、ArjoHuntleigh の訓練を受けた有資格者が行う必要があります。これにより、その安全性と機能が維持されます。

以下の場合は、最寄の ArjoHuntleigh 代理店にご連絡ください：

- より詳細な情報を必要とする場合。
- 予想外の出来事、性能の変化または誤動作の情報を報告する場合。
- 設定、使用または維持管理この *Maxi Sky 600* に関するサポートが必要な場合。
- 交換部品が必要な場合。

ご担当の ArjoHuntleigh 代理店では、本製品の長期的な安全性、信頼性および価値を最大化させるサポート・サービスプログラムをご用意しております。

この取扱説明書の追加のコピーは、最寄の ArjoHuntleigh の代理店から購入可能です。ご注文の際は、*取扱説明書*の製品番号（*フロントページを参照*）および製品の ID 番号を明記してください。

製造元情報

この製品の製造元：
ArjoHuntleigh AB
Hans Michelsensgatan 10
211 20 Malmö,
SWEDEN（スウェーデン）
☎ : +46 (0) 10-335 45 00
🖷 : +46 (0) 413-138 76
🌍 : www.ArjoHuntleigh.com

001.14150.33.JP rev. 16

一般情報

この取扱説明書で使用する定義：

警告：

意味：これらの使用方法や注意事項を理解し、かつ従わなければ、使用者自身および他の方への怪我の原因となることがあります。

注意：

意味：これらの注意事項に従わなければ、本製品の不具合を引き起こすことがあります。

注記：

意味：これは、本製品の正しい使用に関する重要な情報です。

使用目的

本 *Maxi Sky 600* リフトは、在宅環境、老人ホームおよび他の介護施設で患者を持ち上げることを目的に設計されています。患者の移乗は、この取扱説明書に記述されている注意事項に従って、適切な訓練を受けた介護職員の監督の下で行われなくてはなりません。他のすべての目的・方法で使用することは避けなければなりません。

Maxi Sky 600 は、上記の目的のためだけに使用しなければならず、現地の規定に従って ArjoHuntleigh 認定職員が取り付けなければなりません。

想定製品寿命

Maxi Sky 600 は、「保守・点検」セクションに規定の予防保全を前提条件として、耐用年数 7 年または移乗回数 10,000 回（どちらか早い方）に基づいて設計、テストされています。移乗回数と年数との間のおよその対比表は、表図 1 に明示されています。

1 日あたりの移乗回数	年数 （移乗回数 10,000 回）
4	7
6	4.5
8	3.5

図 1

警告：当メーカーは、寿命を超えたリフトまたはその付属品の完全な安全性を保証することはできません。

かかる付属品の使用は患者が落下する原因となることがあります。

リフトカセット上の赤のインジケーターランプは、その耐用年数の約半分を経過した時点で点滅し、耐用年数が終了した時点で再び点滅します。

本製品の使用寿命は、完全なオーバーホールが必要になるまでの安全使用期間に直接相当します。本製品カセットの経時的劣化、使用頻度（1 日あたりの移乗回数）、患者の体重、およびメンテナンスの頻度が、*Maxi Sky 600* リフトの寿命に影響する要因です。移乗は、患者の A 点から B 点への変位（移動）として定義されます。移乗サイクルには、持ち上げ動作と下降動作が含まれます。

布製スリングと布製ストレッチャーの想定製品寿命は購入日から約 2 年です。この推定寿命は、スリングとストレッチャーが ArjoHuntleigh *スリング適用ガイド*、*取扱説明書* および「予防保全計画」に従って洗浄、保守、点検される場合にのみ適用します。

バッテリー、ヒューズ、ランプ、スリング、ストラップおよびコードなどの他の消耗品の期待寿命は、それぞれの機器の管理と使用量により異なります。消耗品は、既刊の *取扱説明書* および「予防保全計画」に従って保守してください。

この取扱説明書の使い方

警告：この取扱説明書に含まれている情報完全に理解することなしに本製品の使用を試みないでください。

***Maxi Sky 600* の誤った使用は、患者および / または介助者の怪我の原因となることがあります。**

完全に理解できない部分がある場合は、最寄の ArjoHuntleigh 代理店に連絡してより詳しい説明をお求めください。この取扱説明書の警告に従わない場合は、怪我の原因になることがあります。

この取扱説明書はリフトカセットと一緒に保管し、必要に応じて参照してください。当該情報に従って、すべてのオペレーターが必ず定期的に本製品の使用訓練を受けるようにしてください。

使用されている記号

一般的記号	記号の説明
	この記号には、製造日を示す日付とメーカーの住所が付いています。
CE	この記号は、本製品が医療機器指令 93/42/EEC に準拠していることを示します。
C SA US	この記号は、カナダ規格協会（CSA) の承認を示します。
REF	この記号にはメーカーのカタログ番号が付いています。
SN	この記号にはメーカーのシリアル番号が付いています。
	この記号は*取扱説明書*を参照します。
	この記号は、WEEE 指令に従って「分別収集」の対象となるすべてのバッテリーとアキュムレータを示します。
	この記号は BF 型装着部を示します。
	この記号は、挟まれ事故の危険性があることを示します。
	この記号は、リフトカセット上の緊急停止システムの位置を示します。
	この記号は、リフトカセット上の緊急下降システムの位置を示します。
SWL	安全耐荷重は、本リフターが安全な操作を確保することができる最大荷重を表します。
$IP_{N_1N_2}$	筐体による保護等級。 N_1：粒子の侵入、 N_2：水の侵入。

一般的記号	記号の説明
	直流（DC)。
	交流（AC)。

充電器関連記号	記号の説明
	この記号が示すのはクラス II 電気機器：これは、感電に対する保護が基礎絶縁だけに依存しない電気機器に関する用語です。

頭字語の定義

頭文字	定義
DPS	自動位置決めシステム
ECS	拡張充電システム
RTC	充電器への復帰
RTH	ホームへの復帰
PDPS	電動式 DPS
PPP	事前プログラム位置
WEEE	廃電気電子機器

安全に関する注意事項

一般的な注意事項

これらの安全に関する注意事項は、常時リフトカセットと一緒に保管してください。

注意：リフトカセットを落とさないでください。これは、発見しにくい内部の損傷を引き起こすことがあります。本リフトに損傷の疑いがある場合は、最寄の ArjoHuntleigh 代理店に連絡して点検整備を依頼してください。

注記：ArjoHuntleigh リフトは、KWIKtrak™ レールシステム、ArjoHuntleigh スリングとその付属品用に特別設計されています。

KWIKtrak 以外のレールシステムに関する追加情報

ArjoHuntleigh により、このカセットは *KWIKtrak* 以外のレールシステム用に適合化されている可能性があります。

その場合は、該当するレールシステムの情報について、この取扱説明書と共に提供されている追加情報（001-14250-**）* を参照してください。

この追加情報は、以下に関連する重要な情報を提供します。

- 安全耐荷重
- レールシステムの限界
- 特定部品の説明

Maxi Sky 600 を使用する前に、それがレールシステムに取り付けられている付属品に適合することを必ず確認してください。

警告：*Maxi Sky 600* を *KWIKtrak* 以外のトラックシステムに使用する前には、必ずこの*取扱説明書*に同梱されている追加情報をよく読み、理解するようにしてください。

***Maxi Sky 600* をそれに適合しないトラックシステムと使用すると、患者が落下する原因となることがあります。**

安全耐荷重

本 *Maxi Sky 600* リフトは *KWIKtrak* レールシステム用であり、持ち上げ能力 272 kg（600 lb）で設計されています

警告：取り付け、または取り付けの変更・修正は、必ず ArjoHuntleigh の有資格技術者が行うものとします。

すべての安全規則に従わないで取り付けを行うと、患者が落下する原因となる可能性があります。

警告：*Maxi Sky 600* リフトは、体重が規定の安全耐荷重以内の患者に使用されることを意図しています。以下に表示されている体重制限を超える重量の持ち上げを試みないでください。

- **レールシステム**
- ***Maxi Sky 600* リフトカセット**
- **スプレッダーバー上**
- **その付属品上**
- **スリング上**

これらに過負荷をかけると、破断の原因となることがあり、その結果患者の落下を引き起こすことがあります。

安全に関する重要事項

必ず以下の徹底を図ってください。

- 本リフトを使用する前に必ず推奨日常保守を行う。質問やご不明な点がある場合、または本製品の性能が変化した場合は、最寄の ArjoHuntleigh 代理店にご連絡ください。
- 本製品は、本書に記載の注意事項に従って訓練を受けた職員だけが使用する。

警告：患者移乗適合性に関する臨床的評価は、医療専門家が行う必要があります。

特定の場合では、リフトの使用が患者の全身状態に影響する可能性があります。

- 電極、カテーテルまたは他の医療機器に接続されている患者には、特別な配慮を払ってください。
- 移動中の強烈な衝撃を回避する。
- この取扱説明書に記述されている持ち上げ手順が遵守される。
- すべての制御機構および安全機構が、この取扱説明書に規定されている規則に従ってのみ使用される。本リフト上の安全制御やボタンを強制的に操作することは絶対に試みない。
- 本充電器をシャワー室、風呂場または他の湿度の高い場所に保管しない。
- スリングが適切に装着されている。
- 判読困難な防止ラベルまたは指示注意ラベルが交換される。

*. 最後の 2 文字は本取扱説明書の言語に応じて変わります。

安全に関する注意事項

警告：ArjoHuntleigh は、ストラップ、手元スイッチのケーブルまたは緊急プルコードに関連する巻き込み事故の危険性があることを警告し、これらの事故を防止するため必要な予防措置を取るように忠告します。

警告：この製品には、子供が飲み込むと窒息の危険性がある小部品が含まれています。

注意：本リフトのすべての部品を清潔で乾燥した状態に保ち、この取扱説明書の「保守・点検」セクションで指示されているように電気的・機械的安全性チェック行ってください。

注意：手元スイッチの水（または他の液体）への過剰な暴露は、本装置の誤動作を引き起こす可能性があります。

警告：使用前には毎回必ず、すべてのトラックのエンドストッパーが所定の位置に固定されていることを確認してください。

エンドストッパーが欠落していると、患者が落下する原因となる可能性があります。

感電防止

- リフトに裸の導体または損傷した電源コードが使われている場合、リフトに触れたり、使用したりしないでください。電気が流れている機器は重傷の原因となる可能性があります。本リフトまたは充電器の配線が裸になっていたり、損傷したりしている場合は、ただちに最寄の ArjoHuntleigh 代理店にご連絡ください。
- 本製品に水をかけたり、水や湿気にさらしたりしないでください。

防火および防爆

- 本バッテリーを直射日光のあたる場所や熱源の近くに配置したり、保管したりしないでください。
- バッテリーまたはバッテリー充電器を火気に近づけないでください。
- 可燃性麻酔ガスの存在下で本充電器を使用しないでください。
- 本バッテリーの端子間を短絡させないでください。

人と環境の安全対策

- 本バッテリーのケーシングに亀裂が入り、バッテリーの内容物が皮膚や服に接触した場合は、ただちに多量の水で洗い流してください。
- バッテリーの内容物が目に入った場合はただちに多量の水で洗い流して、医師の診断を受けてください。
- バッテリーの内容物を吸引すると、呼吸器系に刺激を引き起こす可能性があります。新鮮な空気を吸い、医師の診断を受けてください。
- 本リフトのカセットまたはバッテリーのリサイクルと廃棄に関しては、WEEE 指令の規定ならびに現地の法令に従ってください。規定や法令を遵守しない場合は、バッテリーの爆発、漏出および怪我を引き起こすことがあります。バッテリーを返送する場合は、その端子間を接着テープで絶縁してください。さもなければ、その使用されたバッテリー内部の残留電気により、火災や爆発を生じることがあります。

本製品とその部品を現地の法令に従って適切に廃棄しなければ、違反を構成するばかりでなく、環境に害を及ぼすことがあることを考慮してください。

バッテリーと充電器の安全対策

注記：本説明書に従うことは、本バッテリーを安全に使用する上で重要です。

警告：電源コードが損傷している場合、または本製品に落下や損傷がある場合は、本充電器を使用しないでください。
電源コードは、強制的に曲げたり、その上に重い物を置いたりしないでください。これは、電源コードを損傷させ、火災や感電を引き起こすことがあります。

- 本バッテリー充電器を水にさらさないでください。
- 本バッテリーコネクタを水にさらさないでください。
- 人体への傷害を避けるため、本バッテリーを圧壊、破裂、分解、解体あるいは別の方法で機械的な干渉を加えないでください。
- バッテリーを落とさないように注意してください。
- 本製品に同梱されている充電器だけを使用してください。
- 換気されていない場所では、本バッテリーを充電しないでください。
- 本充電器を覆ったり、埃にさらさないでください。

在宅環境に関する注意事項

警告：*Maxi Sky 600* は、子供が操作することを意図していません。

重傷を負う可能性があります。

注記：*Maxi Sky 600* が動物の近くに配置された場合は、洗浄処置を行う必要があります。本装置の内部に（ストラップの開口部を通して）捕捉されたペットの毛は本製品の性能を低下させる可能性があります。

001.14150.33.JP rev. 16

製品の説明

KWIKtrak システムにおける Maxi Sky 600 リフトと充電ステーション

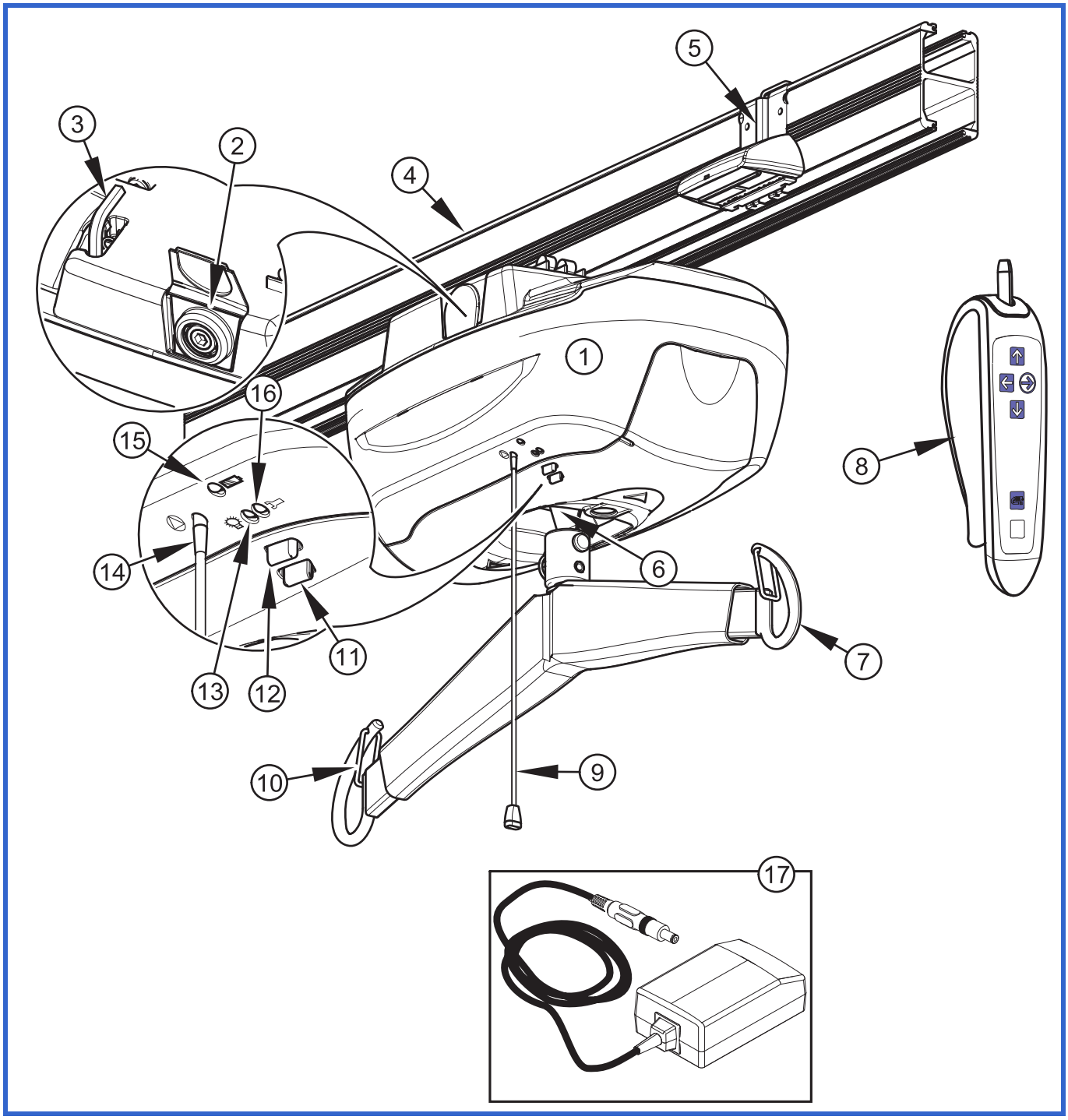


図 2

凡例

1) リフトカセット
2) 緊急下降のメカニズム
3) 六角レンチ
4) *KWIKtrak* レール
5) 充電ステーション
6) ストラップ
7) スプレッダーバー
8) 手元スイッチ
9) 赤の緊急プルコード
10) 安全ラッチ
11) 上昇ボタン
12) 下降ボタン
13) 緑の電源ランプ
14) 緊急時のスイッチのプラスチックインサート
15) 黄の充電ランプ
16) 赤の保守 / 過重量ランプ
17) 壁対応型充電器

手元スイッチ

Maxi Sky 600 リフトの手元スイッチユニットは、本リフトを操作するために使用されます。各機能は図 3 に説明されています。「UP」ボタンと「DOWN」ボタンはスプレッダーバーを昇降させます。4-機能モデルでは、左ボタンと右ボタンは横方向モーターを起動して本リフトをレールに沿って移動します。2-機能モデルの場合は、左ボタンと右ボタンは機能せず、本リフトは手で移動させなければなりません。

プログラム設定モードボタンにより、本リフトの機能を変更することができます。詳しくは、「Maxi Sky 600 天井走行リフトのプログラム設定」セクションを参照してください。

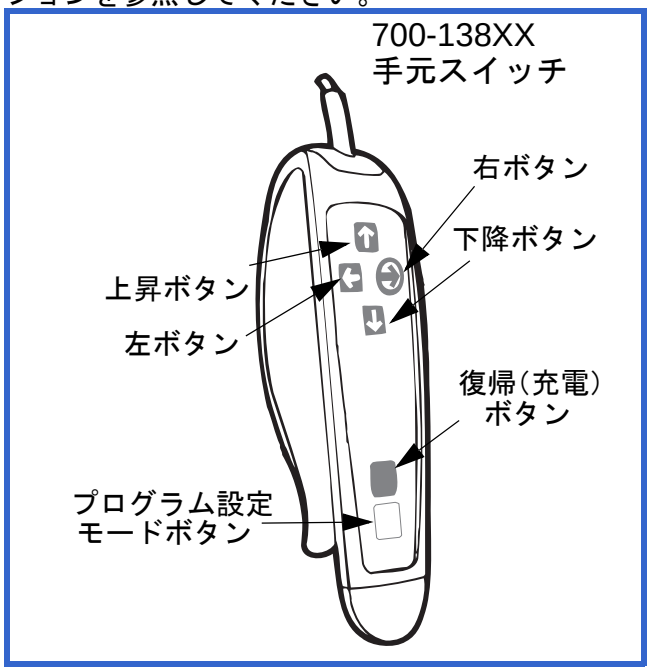


図 3

ECS レールシステム

（*Maxi Sky 600* ECS 専用）

Maxi Sky 600 リフトは、*KWIKtrak* 拡張充電システム（ECS）との使用にも適合しています。このレールシステムにより、いつでもレール上で本リフトの継続充電を行うことができます。これは、患者移乗後に本製品を充電ステーションに復帰させる必要性を排除します。

したがって、ECS オプションを搭載すると、この「充電復帰」（RTC）機能は必須でなくなります。しかし、この機構は事前プログラム位置ステーション（PPP）を使用してリフトカセットをレールの終端部に次の移動まで保管するために使用することができます。

本 RTC はデフォルトで無効に設定されているので、この機構を有効にする方法とその注意事項については、本書の「Maxi Sky 600 天井走行リフトのプログラム設定」セクションを参照してください。この機構は ECS で「ホームへの復帰」（RTH）機構と呼ばれています。

この取扱説明書の「***Maxi Sky 600*** リフトの使い方」セクションを参照してください。

充電器

Maxi Sky 600 ユニットには、世界中の AC 電圧のコンセントに適合するようにカスタマイズ可能な壁対応型充電器が装備されています（図 2 を参照）。

銘板の入力電圧要件と周波数要件をチェックしてください。これらの要件は国によって異なります。電圧要件と周波数要件が異なる場所では、本リフトの使用を試みないでください。

注記：コンセントへのアクセスが限定されていて接続を外すことが困難な場所には、本充電器を配置することは避けてください。

過負荷保護装置

Maxi Sky 600 ユニットには、本リフトの誤った使用を防止する安全システムが装備されています。本リフトが指定されたデューティサイクルを超えて使用されると、荷重の持ち上げはトランスミッションの温度が下がるまで熱検出システムにより阻止されます。その一方、水平方向の変位（移動）と下降機能を起動することは依然として可能です。
過熱保護機能が起動されると、冷却期間中赤ランプは点灯状態を維持します。さらに、「UP」ボタンが押されるとブザーが鳴ります。この冷却期間は周囲条件によって異なりますが 10 ～ 30 分です。

バッテリー情報

Maxi Sky 600 には 12 ボルトの密閉形鉛蓄電池 2 個が使用されています。このバッテリーのタイプは常時フル充電されている必要があります。

バッテリー寿命は、以下の条件によって影響を受け、変化します（2 ～ 3 年）：使用頻度、充電の頻度、操作温度 / 保管条件および保管時間。

バッテリー寿命を伸ばすため、低バッテリー残量表示が表示される前に充電してください。

バッテリーを再充電するには、本製品を充電ステーションの下に配置してください。バッテリーが充電されていることを確認するには、バッテリーステータスインジケーターをチェックしてください。

注記：緊急停止機能が作動していると、バッテリーは充電されません。

注記：充電位置では、本製品は昇降動作を行いません。

001.14150.33.JP rev. 16

製品の説明

付属品

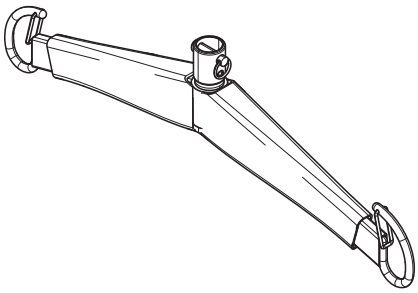
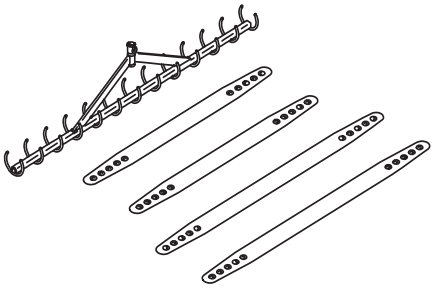
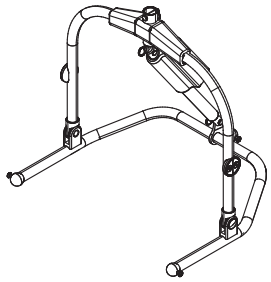
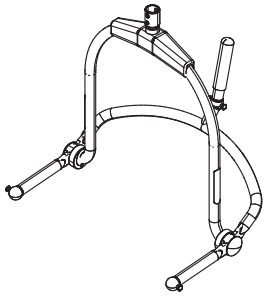
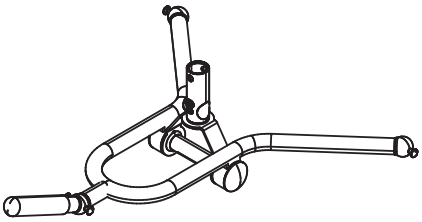
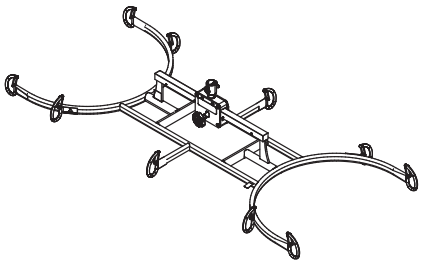
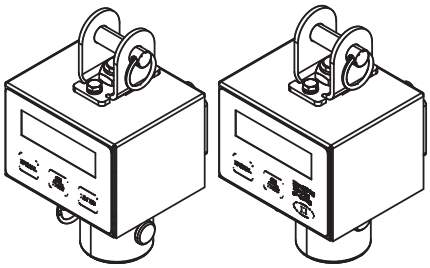
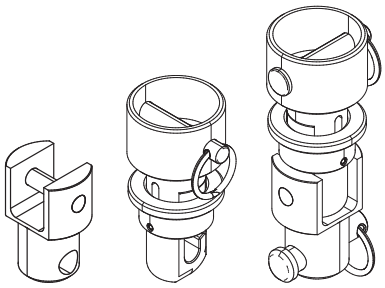
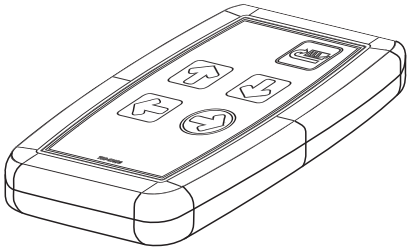
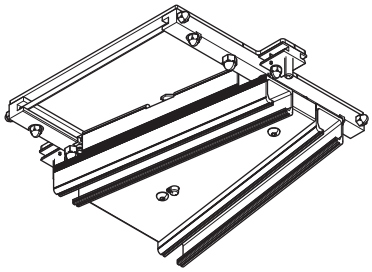
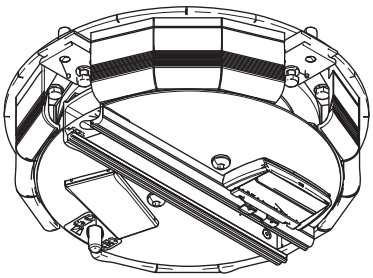
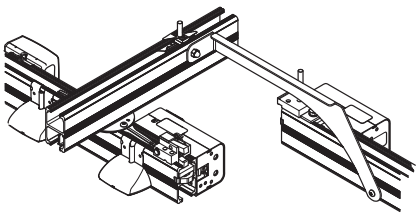
 2-点スプレッダーバー	 モルグキャリーバー	 4-点電動式 DPS
 4-点手動式 DPS	 4-点フラット DPS	 ストレッチャーフレーム
 体重計、北米 / 欧州（クラス III）	 クイックコネクトシステム	 IR システム
 KWIKtrak エクスチェンジャー	 KWIKtrak ターンテーブル	 KWIKtrak ゲートシステム

図 4

警告：ArjoHuntleigh が供給する適合付属品だけを使用してください。
他ブランドの器具を使用すると、本製品の性能を低下させ、怪我の原因となることがあります。
付属品の添付文書を参考にしてください（利用可能な場合）。

ご注文は、最寄の ArjoHuntleigh 代理店にご照会ください。

操作方法と機能

緊急下降

極めて稀な電気故障が発生した場合でも、*Maxi Sky 600* リフトには、緊急時の手動下降機構が搭載されています。

注意：緊急下降機構は、緊急時だけに使用してください。

患者移乗時に本リフトが誤動作した場合、緊急下降装置は患者を安全に椅子、ベッドまたは車椅子に下降させる方法を提供します。

手順：

1) 赤の緊急停止コードを引きます。

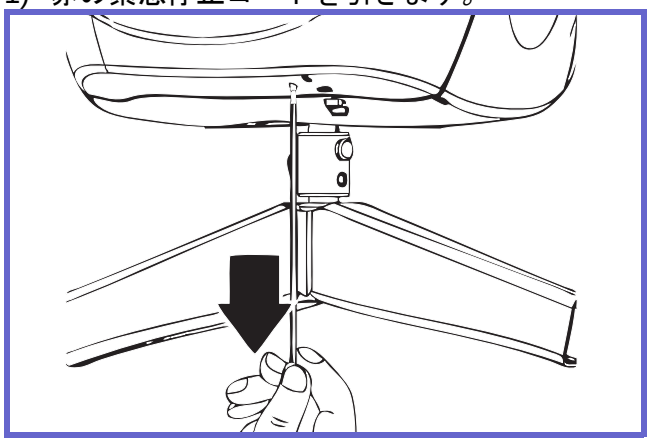


図 5

2) 8 mm の六角レンチを本リフト上部から取り外します。

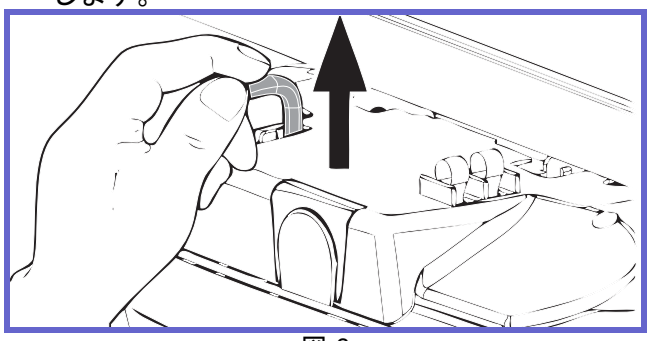


図 6

3) 側面の小ドアを開いて、下降メカニズムにアクセスします。

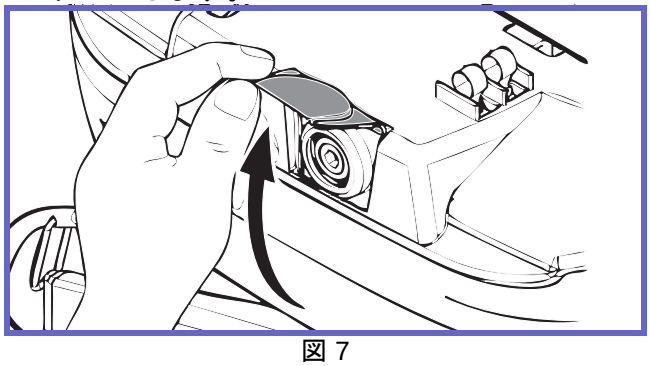


図 7

4) 六角レンチをに深くを下降メカニズムの軸に挿入します。

5) 六角レンチを反時計回りに回して患者を徐々に下降させます。

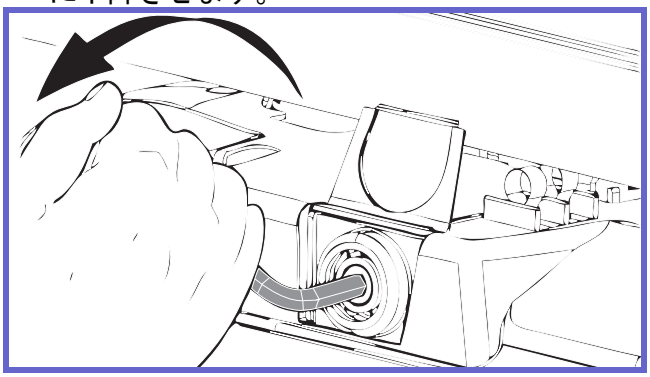


図 8

患者を下降させて椅子、ベッドまたは車椅子に移乗できたら、有資格技術者による本リフトの点検を依頼してください。

緊急停止（赤のコード）

本リフトの機能を停止するための緊急停止はいつでも起動することができます。

1) 緊急時に本リフトを停止するには、赤の緊急停止コードを「クリック音」がするまで静かに引きます（図 9 - A を参照）。これにより、赤のコード最上部にあるリセットスイッチのプラスチックインサートが下に降ります（図 9 - B を参照）。緑の電源ランプも消灯します。緊急停止が起動されると、患者は徐々に下降し始めます。これは正常です。

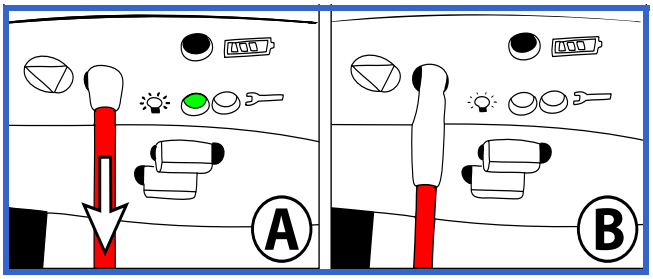


図 9

注意：赤の緊急停止コードを過度の力で引かないでください。このコードをあまり強く引くと、本リフトが操作不能になることがあります。

2) 本リフトを再起動するには、リセットスイッチのプラスチックインサートを押し上げます（赤外線手元スイッチを装備したユニットの場合は赤の緊急コードを再度引きます）。緑のランプにより、*Maxi Sky 600* リフトに電源が入り、いつでも使用できる状態になったことが確認されます。

001.14150.33.JP rev. 16

Maxi Sky 600 リフトの使い方

充電復帰（RTC）、ホームへの復帰（RTH）

RTC（または ECS では RTH）機能はデフォルトで無効に設定されています（RTC 機能がデフォルトで*有効にされている*赤外線手元スイッチを装備したユニットは除く）。この機能を起動するには、この取扱説明書の「Maxi Sky 600 天井走行リフトのプログラム設定」セクションを参照してください。

RTC 機能を連動するには、手元スイッチ上の充電復帰ボタンを 3 秒間押します（赤外線ユニットの場合は 1 秒間）。スプレッダーバーは走行中の障害物を避けるために自動的に最上部に上昇します。本リフトが充電ステーションに配置されると、スプレッダーバーはアクセスを容易にするように事前に選択した高さまで自動的に下降します。

警告：本リフトに患者を乗せている場合は RTC 機能を利用しないでください。これは、患者への怪我を引き起こす可能性があります。

注記：充電復帰動作は、手元スイッチ上の任意のボタンを押すか、または赤の緊急停止コードを引くことによって、いつでも停止することができます。

警告：体重が 20 kg（45 lb）以下の患者を移乗する際は、特別な注意を払う必要があります。本リフトに患者を乗せている場合に RTC を機能しないようにする本製品内の体重検出器が検出することができるのは 最小負荷 20 kg（45 lb）以上です。

警告：RTC 機能を使用する場合は、スプレッダーバーが進行経路の人体や物体に当たる事故を防止するため、常に監視する必要があります。

緊急ブレーキ

この緊急ブレーキは、トランスミッションまたはモーターの故障という極めて稀な事態で、その落下を阻止する安全機構です。

警告：機械的問題が発生し、本ブレーキ機能が作動した場合、本ブレーキを解除したり、上昇ボタンを押したりすることは絶対に避けてください。即座に上昇ボタンを押すと、本ブレーキが外れ、患者を落下させてしまうことがあります。

緊急ブレーキは 1 回の起動（単回使用）が意図されていますので、1 回だけ使用することができます。最寄の ArjoHuntleigh 代理店にご連絡の上、本製品の交換を手配するよう依頼してください。

緊急ブレーキが係合されている状態では、緊急下降装置を使用することはできないことに注意してください。

インジケーターランプ

本リフトと充電システムには多くのインジケーターランプが備わっています。本リフトを適切に使用して包括的に理解することの意義を学ぶには、以下の表を参照してください。

電源インジケーター		
（緑）	点滅	低バッテリー残量。
	点灯	リフトカセットがオンで、すぐに使用できる状態です。
バッテリーの残量		
（黄）	点滅	充電中。
	点灯	充電完了。
保守		
（赤）	点滅	ご担当の ArjoHuntleigh 技術者にご連絡の上、必要な保守点検を行ってください。
	点灯	リフトが「サービスモード」に入っているか、または過熱保護下にあります。
充電中		
充電ステーションのインジケーター	緑に点灯	クリップ式充電ステーションの電源がオン
	赤に点灯	充電器に問題があります。本充電器を使用しないでください。

図 10

スプレッダーバーの取付具

スプレッダーバーには、介助者が工具を使用せずに変更できる取付具が備わっています。

スプレッダーバーの本リフトへの取り付け

警告：スプレッダーバーは、訓練を受けた者だけが取り付けることが必須です。毎回の使用前に、ストラップが適切に取り付けられていること、および取付具が分割リングと固定されていることを常に確実にしてください。

1) ストラップ端部をスプレッダーバーの取付具に挿入します。
2) クレビスピンを取付具とストラップ端部のループに通して挿入します。
3) クレビスピンを分割リングで固定します。

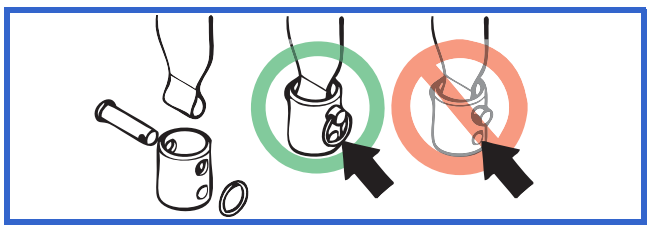
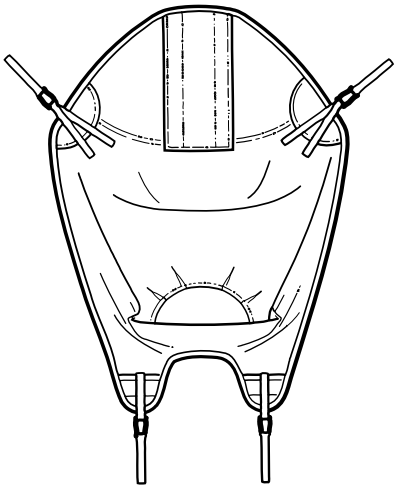


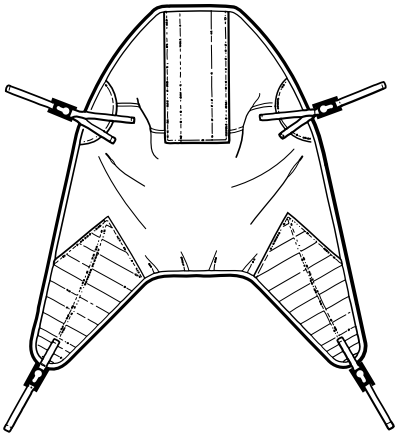
図 11

クリップスリングの互換性

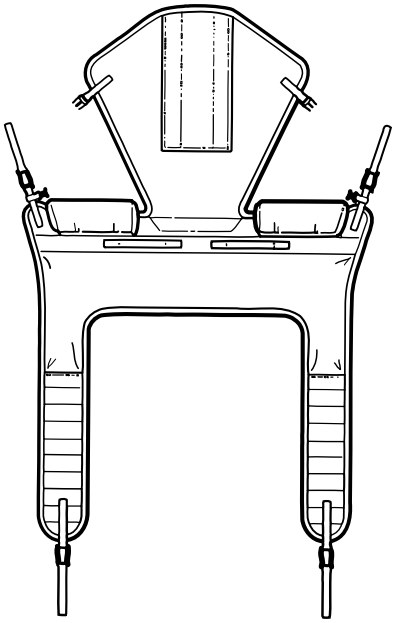
このセクションは DPS スプレッダーバーを装備したモデルだけに適用します。
以下は、*Maxi Sky 600* リフトに適合する標準的な ArjoHuntleigh クリップスリングのリストです。



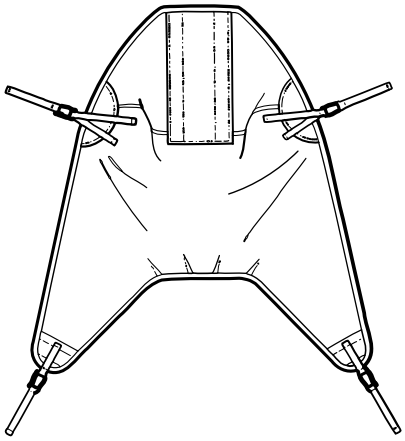
4-点切断患者用



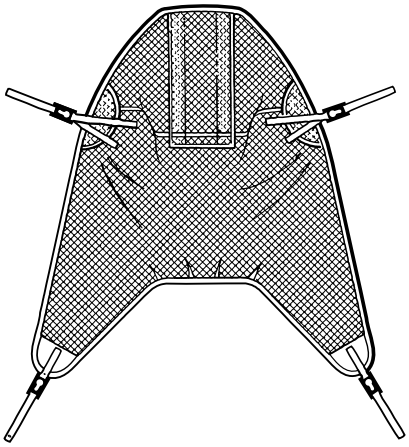
4-点クッション付き



4-点衛生用



4 点クッションなし



4-点メッシュ

図 12

注記：他のスリングモデルもご利用いただけます。クリップスリングとその使い方に関する詳細については、ArjoHuntleigh の代理店にお問い合わせください。

クリップスリングの用途

スリングの選択

Maxi Sky 600 リフトに取り付けられるスプレッダーバーによって、患者移乗に使用可能なスリングが限定されます。

すべての ArjoHuntleigh 4-点クリップスリングは、適合 DPS または PDPS と使用してください。

以下のように、すべてのスリングは、サイズ別に異なる色の縁飾りまたは取付ストラップの色で色分けされています。

- グレーまたはティール - 極々小（XXS）
- 白または茶色 - 極小（XS）
- 赤 - 小（S）
- 黄 - 中（M）
- 緑 - 大（L）
- 青 - 特大（XL）
- テラコッタ色 - 特々大（XXL）

ArjoHuntleigh では、特定の患者に必要と見なされるヘッドレストのオプションを当社スリングの多くに対してご用意しています。また、特殊目的のスリング製品群もオプションとしてご利用いただけます。これらの特殊スリングまたは特殊サイズのスリングについては、最寄の ArjoHuntleigh 代理店にお問い合わせください。

注記：ArjoHuntleigh *Flites* スリング（使い捨て）を *Maxi Sky 600* リフトと使用する場合には、必ず別個の *Flites 取扱説明書*を現行の *取扱説明書*と併せて参照してください。

注記：ヘッドレスト付き ArjoHuntleigh クリップ取付スリングには、その頭部セクションにポケットが 2 つ備わっていて、使用中に補強用プラスチックインサートを入れておくようになっています。スリングを使用する前に、これらの補強用インサートがスリングポケットにはめ込まれることを常に確実にしてください。

DPS の操作

DPS スプレッダーバーは、チルトハンドルを昇降することによって調整されます。これは、ハンドルから手を離した後でも適切な位置にとどまります。

図 13

PDPS の操作

注記：PDPS スプレッダーバーは、添付文書と本書の注意事項を併せて参照した上で使用してください。

PDPS スプレッダーバーを位置決めするには、

- ボタンを押して患者を後方に旋回させ、
- ボタンを押して患者を端座位に起こします。

電動動作は、その移動距離制限に達するか、またはそのボタンが解除されるまで継続します。

電動動作が中断されると、スプレッダーバーは適切な位置にしっかり固定されます。

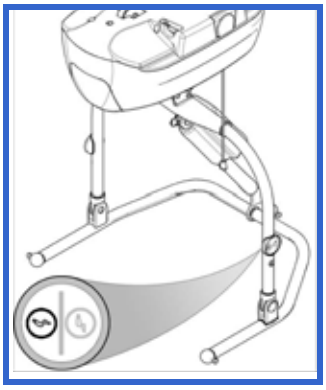


図 14

注意：電動式 DPS スプレッダーバーを湿潤環境で使用する場合は、タッチパネルよりも上の部分は液体に浸さないでください。これは、スプレッダーバーの機能に悪影響を与える可能性があります。

DPS/PDPS へのスリングの取り付け

クリップ取付具をラグの上に挿入します。

ラグがクリップ穴の上部分に収まるようにスリングに引き下げることによって、クリップを所定の位置に固定します。

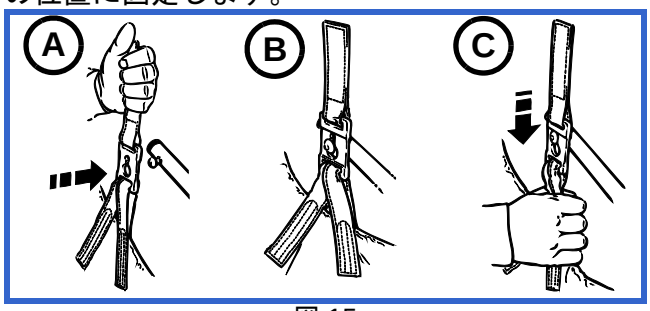


図 15

ほとんどの居住者の場合、脚部クリップの直線取付がお勧めできる使用法です（図 16 を参照）。

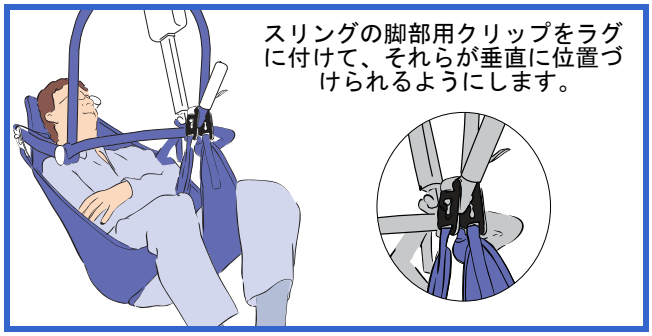


図 16

居住者が脚部クリップを蹴って外してしまう傾向がある場合には、脚部クリップの交差取付法を適用するものとします。それにより、クリップが蹴り外されることを防止できます（図 17 を参照）。

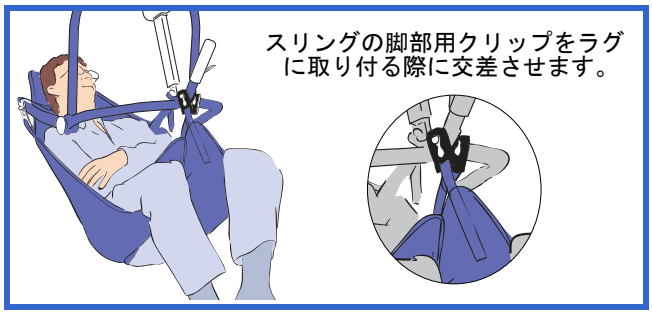


図 17

DPS/PDPS からのスリングの取り外し

スリングを引き上げて、ロックを解除します。

クリップ取付具を横方向に引いてラグから取り除きます。

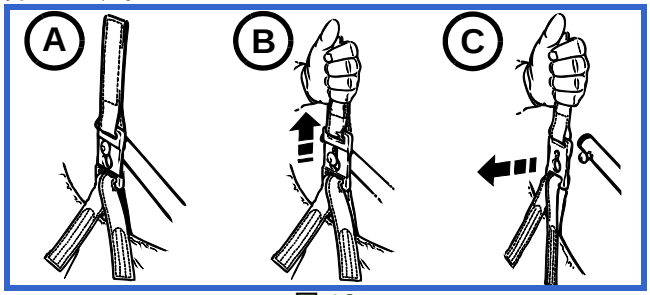


図 18

クリップスリングを用いた患者移乗

Maxi Sky 600 を使用する前に以下の徹底を図ってください。

- 本リフトを使用する前に、「予防保全計画」で「毎回の使用前」と標識された項目を必ず実行する。
- 患者の持ち上げ中に患者の過剰な揺動を避けるため、持ち上げる直前に本リフトのストラップをできる限り垂直にする。

警告：移動中に患者は決して付添人なしで放置されるべきでありません。特定の安全機構には介助者だけがアクセスすることができ、誤動作が発生した場合に患者が動きが取れない状態になる可能性があります。

警告：この製品は、決して患者が操作してはならず、介助者だけが操作することが必須です。誤動作が発生した場合に患者が動きが取れない状態になる可能性があります。

警告：スプレッダーバーが患者に近接している場合は、必ずそれを保持してください。スプレッダーバーが患者に当たると、怪我を引き起こす可能性があります。

警告：患者を持ち上げる前に、スリングが障害物（たとえば車椅子のブレーキやアームレスト）に接触したり絡まったりしないことを必ず確認してください。スリングがかかる障害物に引っ掛かると、患者が落下する原因となる可能性があります。

警告：患者の体重が支持されるにつれて、スリングの取り付け状態が維持されることを必ず確認してください。不正に固定された取付具は、外れて患者の落下を引き起こす可能性があります。

警告：スプレッダーバーが本リフトに適切に取り付けられていることを必ず確認してください。スプレッダーバーの取り付けが十分に固定されていないと、患者が落下する原因となることがあります。

警告：患者が障害物に突き当たることを防止するため、移動の目的経路に一切の障害物がないことを必ず確認してください。

注意：手元スイッチのケーブルでレール沿いに本リフトを引いて移動させることを試みないでください。これはケーブルを損傷させ、最終的には手元スイッチの機能を損ないます。

注記：患者の最大の快適性を確保するため、患者がスプレッダーバーにつかまらないようにしてください。

001.14150.33.JP rev. 16

クリップスリングの用途

座位姿勢からの患者の持ち上げ

1) スリングをその底部が患者の尾骨よりもわずか下になるように患者に装着します。MaxiSlide® または MaxiTube® 位置決め補助具を使用すると、スリングの装着を容易にすることができます。

2) スリングのヘッドレスト部が患者の頭部を背後から覆うように支えることを確実にします。

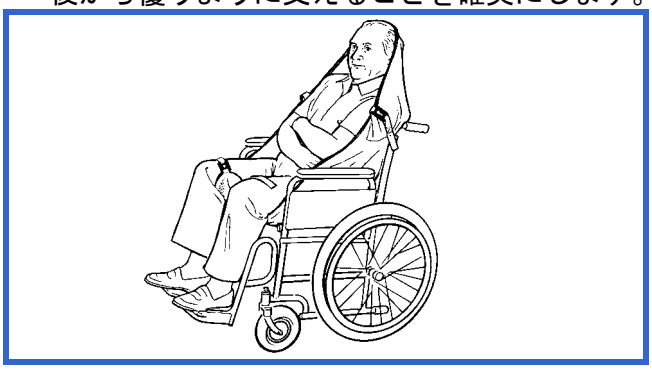


図 19

3) 患者大腿部の下にある各脚部ストラップを、両大腿部の間からその内側にあたるように引き出します。

4) 本リフトを患者に近づけ、以下の徹底を図ります。
   - スプレッダーバーが座位姿勢に設定される。
   - スプレッダーバーの幅広部が肩の高さか、そのすぐ下にある。
   - スプレッダーバーが十分に近接した位置にあり、スリングのショルダーストラップのクリップをフレームに接続できる。

5) ショルダーストラップのクリップを接続し、次いでフレームを傾けて脚部を取り付けます。必要があれば、スプレッダーバーを患者の上で患者の体に接触しないように注意しながら、さらに少し下降させます。

図 20

6) 手元スイッチを使用して患者を持ち上げ、患者移乗に適した安楽なセミリクライニング（セミファーラー位）姿勢に患者を位置決めします。患者は、介助者の目の高さより上に持ち上げるべきでありません。

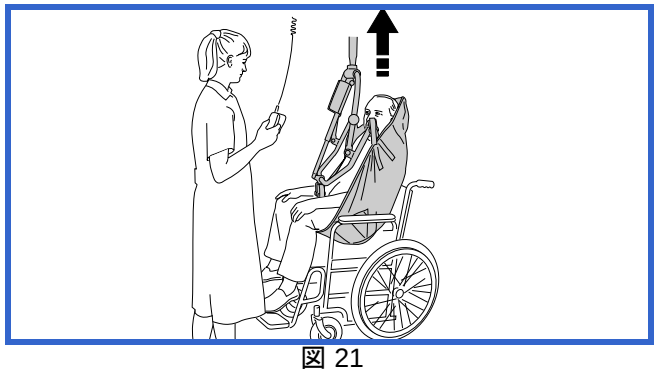


図 21

7) 患者の顔は、移動方向に向けて通常の椅子の高さに保ちます。

8) 患者移乗を始めます。

9) 過剰な揺動を止め、さらなる安心感を与えるため、患者の体を支えます。

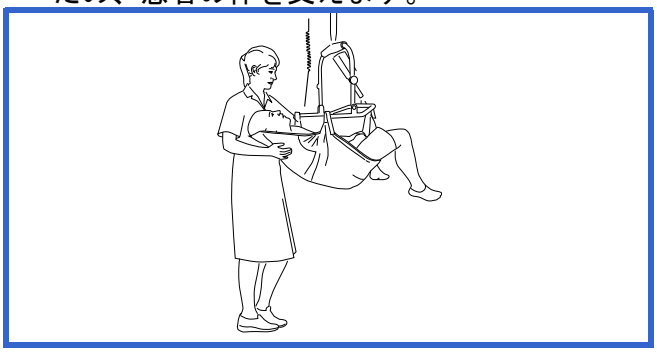


図 22

座位姿勢への患者の下降

1) 患者が移動先に到着したら、移動先に適した体位に応じて患者の体位を再位置決めします。

2) 下降中に微調整を行うことによって、患者を新たな位置に下降させます。

3) 患者の体重が完全に支持されるようになったら、接続クリップを取り外します。

4) 本リフトを患者から離します。

5) 患者の体の下からスリングを取り除きます。

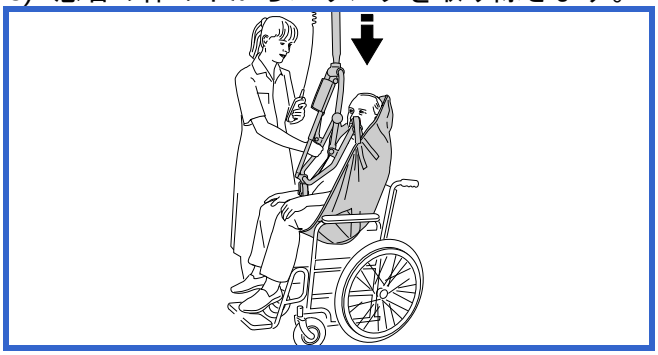


図 23

仰臥位姿勢からの患者の持ち上げ

患者をベッドから持ち上げる際は、始める前にベッドが適切な作業高さに調節されていること必ず確認してください。

警告 : 患者の落下を防止するため、ベッドに安全サイドレールが取り付けられていることを必ず確認してください。

1) 患者を横転させ、側臥位にします。
2) スリングを半分に折りたたんで患者の背部に沿ってベッド上に配置します。このスリングは必ず患者の頭上部まで延長させ、患者の脊髄底部とスリングの底部とを合わせるようにします。

図 24

3) 患者を横転させてスリング上に配置し、次いでわずかに反対方向に横転させて、スリングの折りたたみ部を広げます。

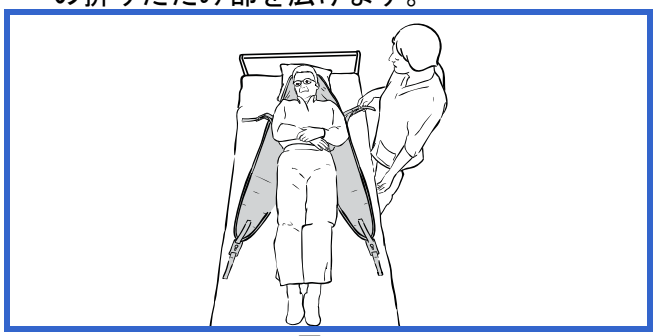


図 25

4) 可能であれば、ベッドの頭部をわずかに起こします。
5) 本リフトを患者に近づけ、以下の徹底を図ります。
   - スプレッダーバーがリクライニング（半座位）姿勢に設定される。
   - スプレッダーバーが十分に近接した位置にあり、スリングのショルダーストラップのクリップをフレームに接続できる。

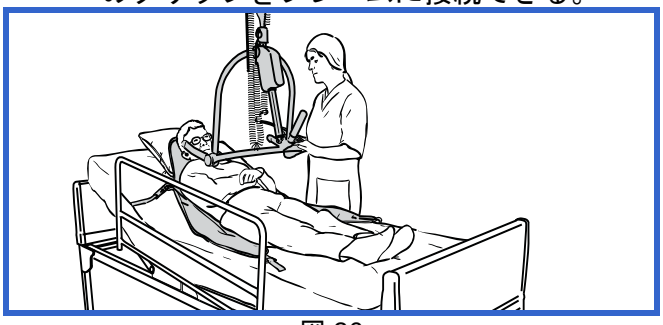


図 26

6) フレームが患者の体に接触しないように注意しながら、スプレッダーバーを患者上で下降させます。
7) スリングのショルダーストラップに接続します。

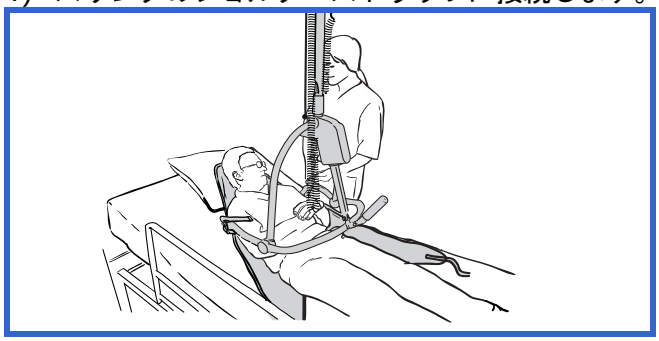


図 27

8) 脚部ストラップクリップの接続が可能になるまで、フレームを傾けます。このストラップは患者大腿部下に配置しなければなりません。これには、片脚ずつ持ち上げる作業が含まれることがあるため、フレームをさらに下降させる必要がある場合もあります。

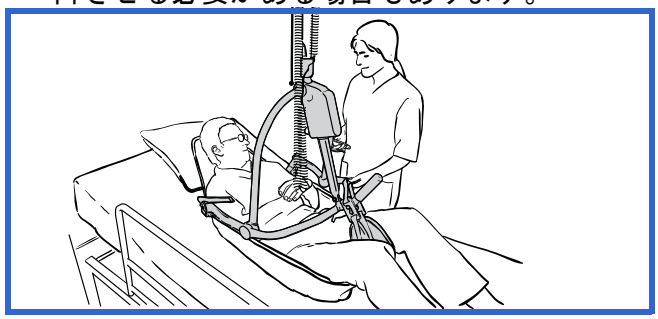


図 28

9) 手元スイッチを使用して患者を持ち上げ、患者移乗に適した安楽なセミリクライニング（セミファーラー位）姿勢に患者を位置決めします。患者は、介助者の目の高さより上に持ち上げるべきでありません。

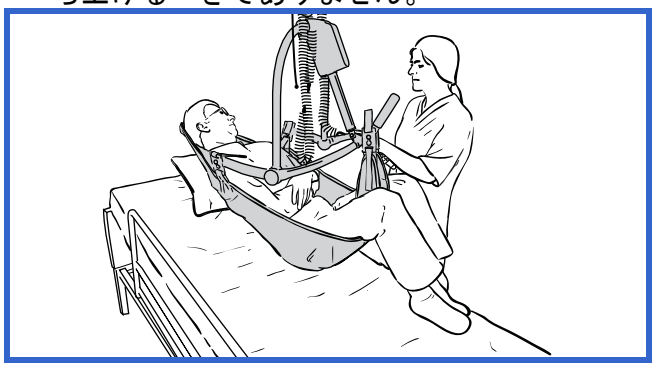


図 29

10) 患者の顔は、移動方向に向けて通常の椅子の高さに保ちます。
11) 患者移乗を始めます。

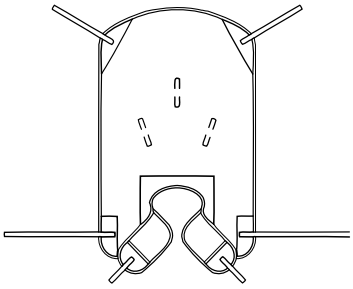
クリップスリングの用途

仰臥位姿勢への患者の下降

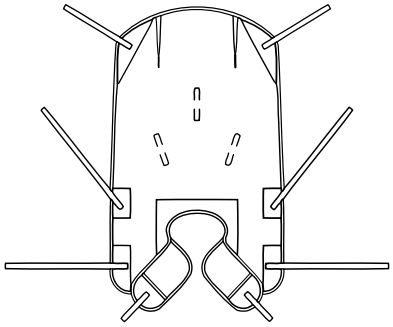
1) 患者が移動先に到着したら、移動先に適した体位に応じて患者の体位を再位置決めします。
2) 患者が常に最善の安楽な体位を維持できるように下降中に微調整を行いながら、患者を新たな位置に下降させます。
3) 患者の体重が完全に支持されるようになったら、接続クリップを取り外します。
4) 本リフトを患者から離します。
5) 患者の体の下からスリングを取り除きます。

ループスリングの互換性

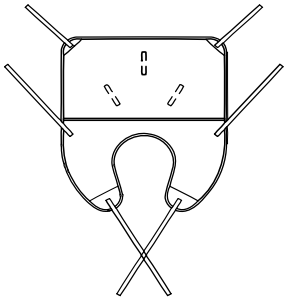
このセクションは 2- 点スプレッダーバーを装備したモデルだけに適用します。
以下は、*Maxi Sky 600* リフトに適合する標準的な ArjoHuntleigh ループスリングのリストです。



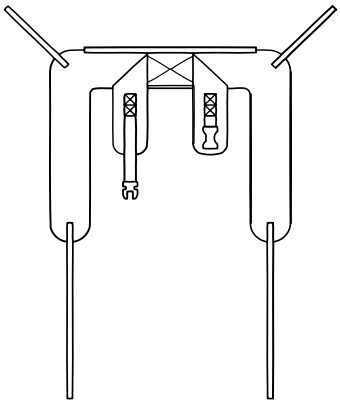
ハンモックスリング



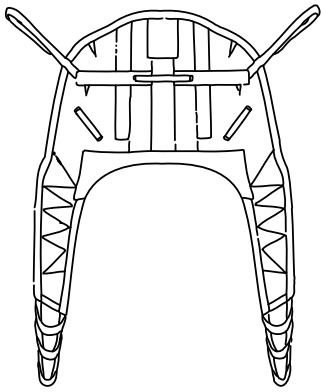
ハンモック 6 スリング



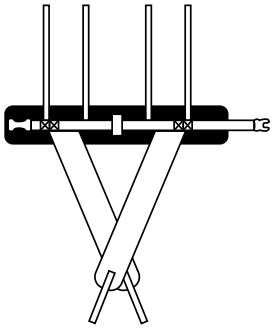
クイックフィットスリング



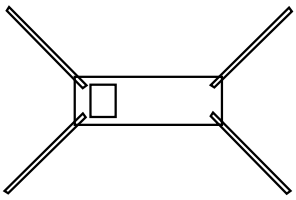
入浴用スリング



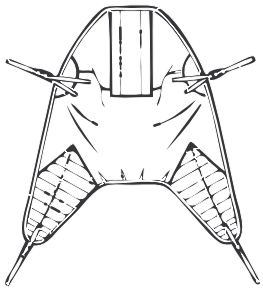
コンビ スリング



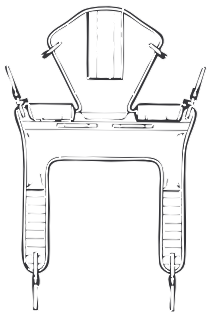
ウォーキング スリング



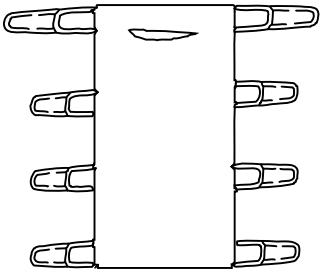
肢スリング



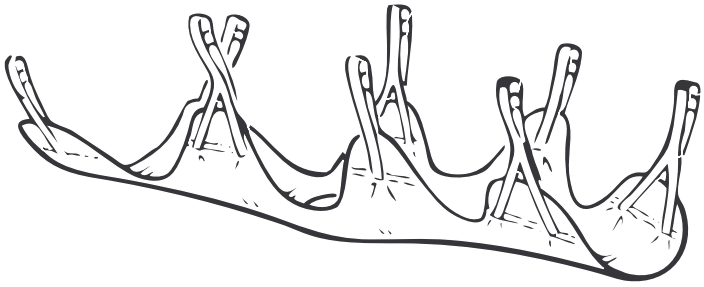
4-点クッション付きスリング



4-点排泄用スリング



体位変換スリング



ソフトストレッチャー

図 30

注記：他のスリングモデルもご利用いただけます。ご注文は、最寄の ArjoHuntleigh 代理店にご照会ください。

001.14150.33.JP rev. 16

ループスリングの用途

スリングの選択

Maxi Sky 600 リフトに取り付けられるスプレッダーバーによって、患者移乗に使用可能なスリングが限定されます。

ループスリングは、2-点スプレッダーバーと使用してください。

以下のように、すべてのスリングは、サイズ別に異なる色の縁飾りまたは取付ストラップの色で色分けされています。

- グレーまたはティール - 極々小（XXS）
- 白または茶色 - 極小（XS）
- 赤 - 小（S）
- 黄 - 中（M）
- 緑 - 大（L）
- 青 - 特大（XL）
- テラコッタ色 - 特々大（XXL）

適切なサイズのスリングは、患者移乗手順中に患者の肩部を支持することができます。

ArjoHuntleigh では、特定の患者に必要と見なされるヘッドレストのオプションを当社スリングの多くに対してご用意しています。また、特殊目的のスリング製品群もオプションとしてご利用いただけます。これらの特殊スリングまたは特殊サイズのスリングについては、最寄の ArjoHuntleigh 代理店にお問い合わせください。

注記：ArjoHuntleigh *Flites* スリング（使い捨て）を *Maxi Sky 600* リフトと使用する場合には、必ず別個の *Flites 取扱説明書* を現行の *取扱説明書* と併せて参照してください。

スプレッダーバーへのスリングの取り付け

取付ループをフック上に配置します。

ループが適切に位置づけられていること、および以下に示したようにラッチによってフックが閉じられていることを必ず確認してください。

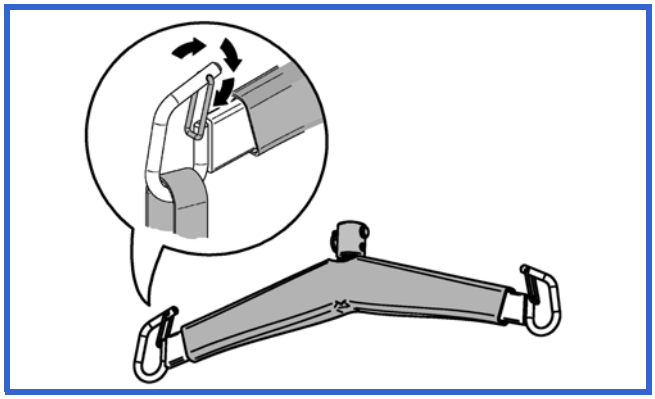


図 31

患者の位置決め

選択される特定のスリングループによって患者の姿勢が決まります。異なるループの組み合わせを使用して、セミリクライニング（セミファーラー位）姿勢から座位姿勢に至る体位で患者を持ち上げ、移動することができます。

ループストラップの選択に応じた体位

肩部	肩部	脚部	臀部 *
脚部			
	3	1	1
	2	1	1
	1	1	1
	1	1	2

*** ヒップループは、THA6i モデルでのみご利用いただけます**

注記：より多くのループを備えるスリングにより、さらに多くの代替姿勢での移動が可能になります。

ループスリングの用途

取り付け方法

本ループスリングは、患者に装着した後に、3 通りの方法で取り付けることができます。以下に説明する 3 つの方法のいずれにおいても、最初にスリングの各ショルダーループをスプレッダーバーに接続してください。

取り付け部分

ここに示した取り付け点の指定部分は、以下を説明する目的のためだけのものです。

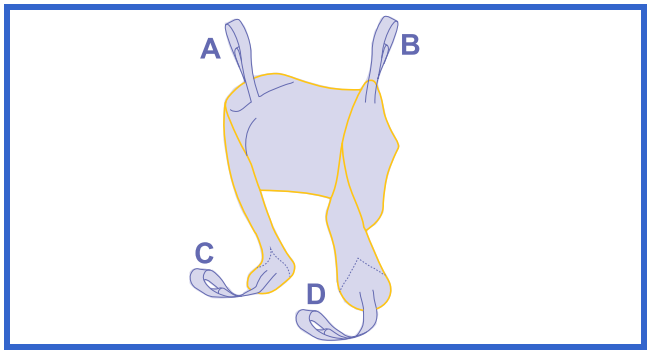


図 32

方法 1 - クロス
（交差ストラップによる閉脚）
この方法は、ほとんどの一般的な移乗に推奨されます。

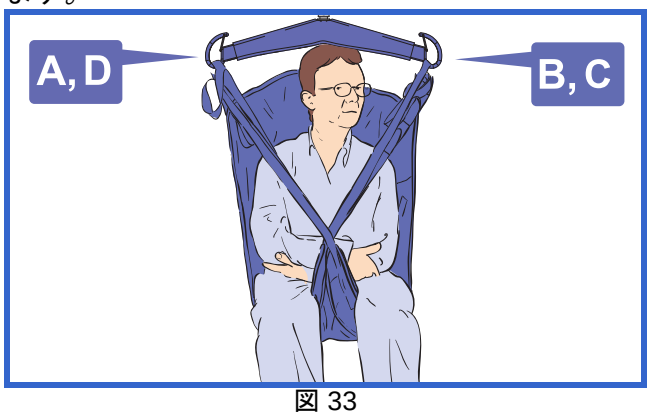


図 33

方法 2 - ハンモック
（ブリッジ、閉脚）
この方法は、切断患者のための快適な乗り心地を提供することができます。
これは、患者の脚部間にスリングストラップを取り付けることが困難な拘縮がある患者に有用な方法です。

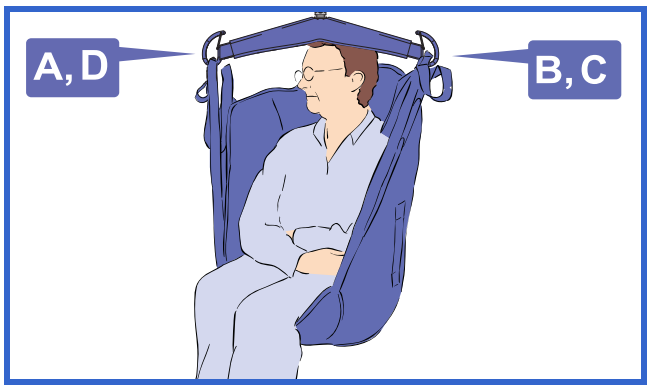


図 34

警告：方法 2 錯乱患者、好戦的な患者または精神障害がある患者には、前方に落下して負傷する可能性があるため、ふさわしくないかもしれません。

方法 3 - 外転
（非交差ストラップによる開脚）
この方法は、脚部の外転状態を保つことができるため、排泄介助および衛生管理がしやすい方法です。

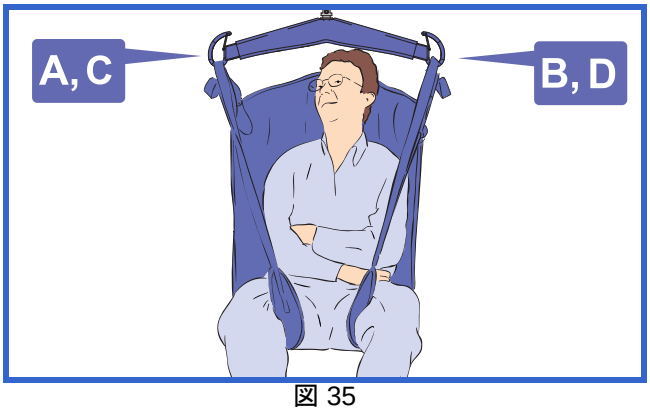


図 35

警告：方法 3 上半身不随患者の場合、ずり下がってスリングから抜けてしまう可能性があるため、ふさわしくないかもしれません。

ループスリングの用途

ループスリングを用いた患者移乗

Maxi Sky 600 を使用する前に、以下の徹底を図ってください。

- 本リフトを使用する前に、「予防保全計画」で「毎回の使用前」と標識された項目を必ず実行する。
- 患者の持ち上げ中に患者の過剰な揺動を避けるため、持ち上げる直前に本リフトのストラップをできる限り垂直にする。

警告：移動中に患者は決して付添人なしで放置されるべきでありません。特定の安全機構には介助者だけがアクセスすることができ、誤動作が発生した場合に患者が動きが取れない状態になる可能性があります。

警告：この製品は、決して患者が操作してはならず、介助者だけが操作することが必須です。誤動作が発生した場合に患者が動きが取れない状態になる可能性があります。

警告：スプレッダーバーが患者に近接している場合は、必ずそれを保持してください。スプレッダーバーが患者に当たると、怪我を引き起こす可能性があります。

警告：患者を持ち上げる前に、スリングが障害物（たとえば車椅子のブレーキやアームレスト）に接触したり絡まったりしないことを必ず確認してください。スリングがかかる障害物に引っ掛かると、患者が落下する原因となる可能性があります。

警告：患者の体重が徐々に支持されるにつれて、スリングの取り付け状態が維持されることを必ず確認してください。不正に締め付け固定された取付具は、外れて患者の落下を引き起こす可能性があります。

警告：スプレッダーバーが本リフトに適切に取り付けられていることを必ず確認してください。スプレッダーバーの取り付けが十分に固定されていないと、患者が落下する原因となることがあります。

警告：患者が障害物に突き当たることを防止するため、移動の目的経路に一切の障害物がないことを必ず確認してください。

注意：手元スイッチのケーブルでレール沿いに本リフトを引いて移動させることを試みないでください。これはケーブルを損傷させ、最終的には手元スイッチの機能を損ないます。

座位姿勢からの患者の持ち上げ

1) スリングの底部が患者の尾骨よりもわずか下になるようにスリングを配置します。MaxiSlide® または MaxiTube® 位置決め補助具を使用すると、スリングの配置を容易にすることができます。

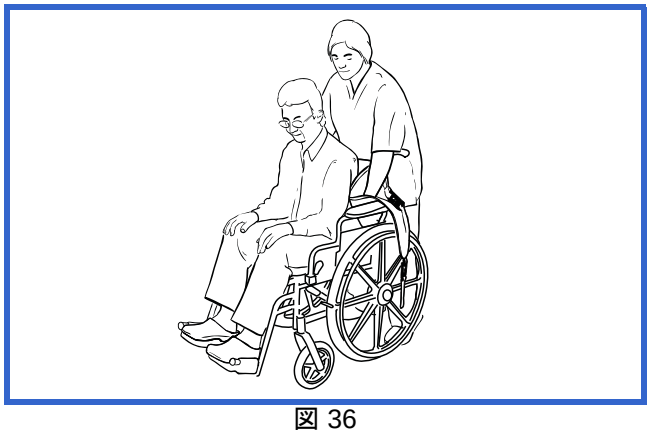


図 36

2) スリングのヘッドレスト部が患者の頭部を背後から覆うように支えることを確実にします。

3) 患者大腿部の下にある各脚部ストラップを、両大腿部の間からその内側にあたるように引き出します。

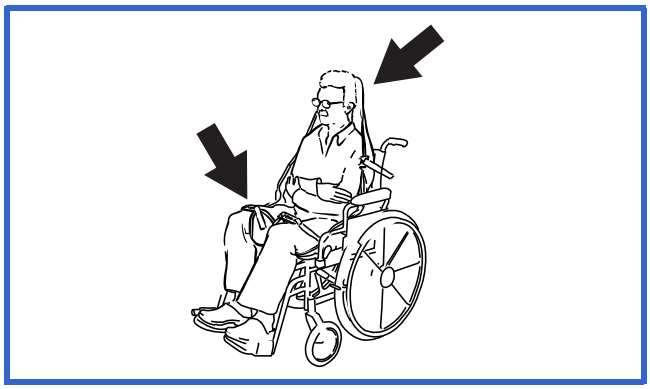


図 37

4) 本リフトを患者に近づけ、以下の徹底を図ります。
   - スプレッダーバーが肩の高さか、そのすぐ下にある。
   - スプレッダーバーが十分に近接した位置にあり、すべてのスリングループをスプレッダーバーのフックに接続できる。

5) 前述の 3 つの方法の 1 つを使用して、ショルダーループを接続し、次いで脚部を接続します。

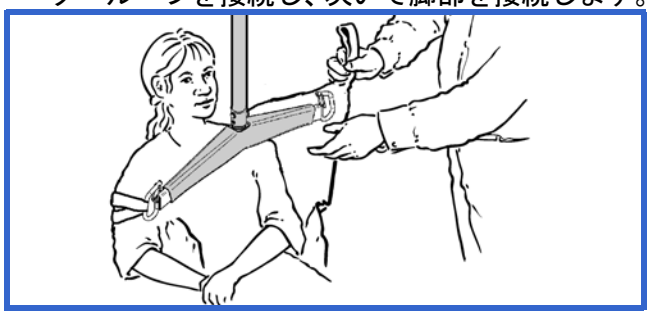


図 38

6) 必要があれば、スプレッダーバーをさらに少し下降させます。
7) 患者を持ち上げます。
8) 患者の顔は、移動方向に向けて通常の椅子の高さに保ちます。
9) 患者移乗を始めます。

座位姿勢への患者の下降

1) 移動先に到着したら、患者を新たな位置に下降させます。
2) 患者の体重が完全に支持されるようになったら、スリングを取り外します。
3) 本リフトを患者から離します。
4) 患者の体の下からスリングを取り除きます。

仰臥位姿勢からの患者の持ち上げ

患者をベッドから持ち上げる際は、始める前にベッドが適切な作業高さに調節されていること必ず確認してください。

警告：患者の落下を防止するため、ベッドに安全サイドレールが取り付けられていることを必ず確認してください。

1) 患者を横転させ、側臥位にします。
2) スリングを半分に折りたたんで患者の背部に沿ってベッド上に配置します。このスリングは必ず患者の頭上部まで延長させ、患者の脊髄底部とスリングの底部とを合わせるようにします。

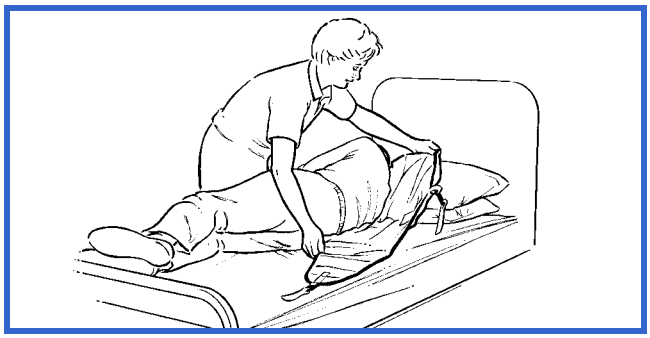


図 39

3) 患者を横転させてスリング上に配置し、次いでわずかに反対方向に横転させて、スリングの折りたたみ部を広げます。
4) 可能であれば、ベッドの頭部をわずかに起こします。
5) 本リフトを患者に近づけます。スプレッダーバーが、すべてのスリングループをスプレッダーバーのフックに固定できるほどに近接した位置にあることを確実にします。
6) 前述の 3 つの方法の 1 つを使用して、ショルダーループを接続し、次いで脚部を接続します。
7) 患者を持ち上げます。
8) 患者の顔は、移動方向に向けて通常の椅子の高さに保ちます。
9) 患者移乗を始めます。

仰臥位姿勢への患者の下降

1) 移動先に到着したら、患者を新たな位置に下降させます。
2) 患者の体重が完全に支持されるようになったら、スリングを取り外します。
3) 本リフトを患者から離します。
4) 患者の体の下からスリングを取り除きます。

ストレッチャーフレームとストレッチャーの使用

ArjoHuntleigh 患者ストレッチャーフレームおよびストレッチャーが *Maxi Sky 600* リフトと使用される場合は、使用前に必ず別個の該当するストレッチャーフレームおよびストレッチャー操作説明書などを参照してください。

付属品の使用方法

エクスチェンジャーの使い方

注記：次のセクションは *KWIKtrak* レールシステムだけに適用します。

エクスチェンジャーは、***Maxi Sky 600*** ユニットが 1 つの介護領域から別の介護領域にアクセスすることを可能にします。緑の電源インジケーターが点灯していることをチェックすることによって、本リフトの電源が入っていることを必ず確認します。

本リフトを起動ステーションに移動し、手元スイッチ上のボタンを解除します。ビープ音が鳴るのを確認し、次いでエクスチェンジャーが進行経路の変更を完了するまで待機します（図 40 を参照）。

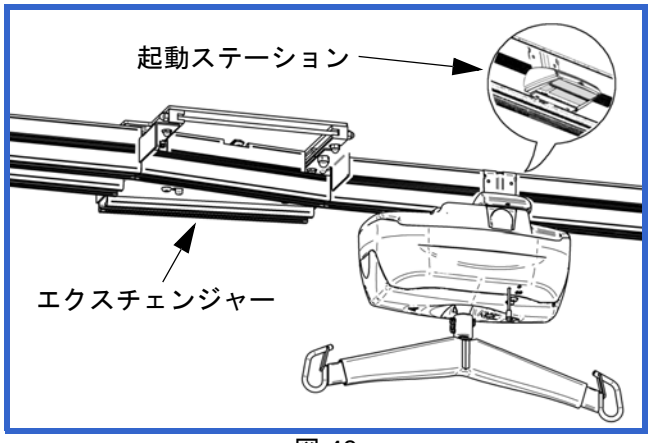


図 40

エクスチェンジャーを通して本リフトを移動させます（図 41 を参照）。

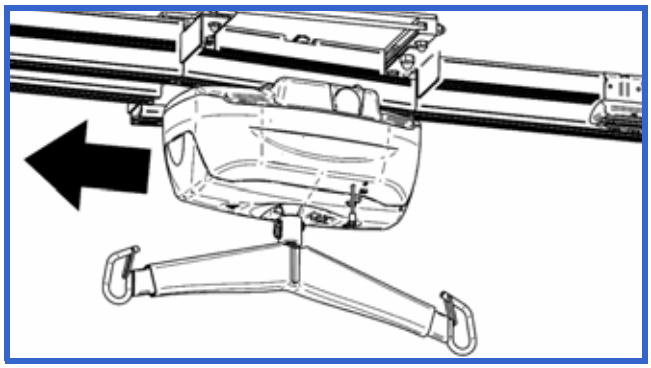


図 41

エクスチェンジャーが自動的に作動しない場合や緊急事態の場合には、エクスチェンジャーの下にあるクイックリリースを手動で係合させます（図 42 を参照）。開位置に保持しながら、手や指をスライディングプレートの移動経路に置かないように注意して、スライディングプレートを新たな位置にスライドします。

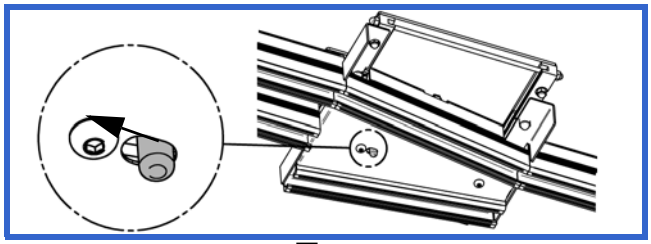


図 42

クイックリリースボタンを解除し、リフトを移動してエクスチェンジャーを通過させます。

ターテーブルの使い方

注記：次のセクションは *KWIKtrak* レールシステムだけに適用します。

ターンテーブルは、本リフトが複数方向レールシステムで経路を変更することを可能にします。緑の電源インジケーターが点灯していることをチェックすることによって、本リフトの電源が入っていることを必ず確認します。

本リフトを起動ステーションに移動し、手元スイッチ上のボタンを解除します。ビープ音が鳴るのを確認し、次いでターンテーブルが進行経路の変更を完了するまで待機します（図 43 を参照）。

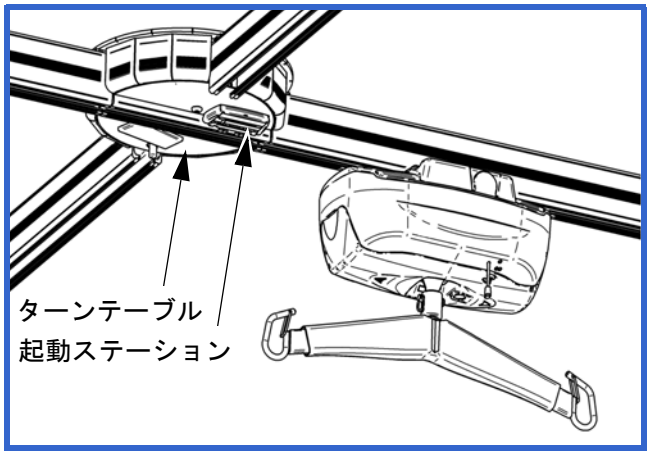


図 43

本リフトを移動してターンテーブル外に出します。

ターンテーブルが自動的に作動しない場合や緊急事態の場合には、ターンテーブルの下にあるクイックリリースを手動で係合させます（図 44 を参照）。開位置に保持しながら、手や指を回転プレートの移動経路に置かないように注意して、回転プレートを回して新たな位置に変更します。

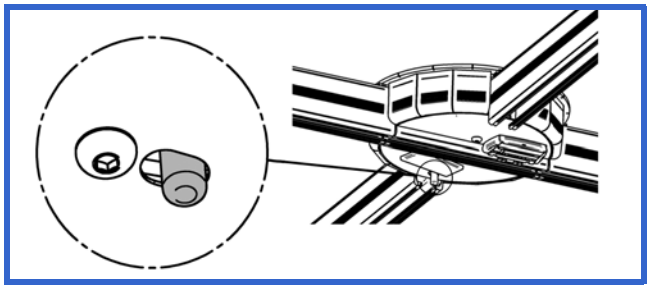


図 44

クイックリリースボタンを解除し、リフトを移動してターンテーブルを通過させます。

ゲートの使い方

このゲートは、X-Y レールシステムと固定式レールシステムとが整列していない場合に本リフトがレールから外れて落下するのを防止するため、これらの 2 つのシステム間へのアクセスを阻止する安全機器です。

ゲートからの退出

本リフトを X- 軸方向に移動し、ゲートがその側部に取り付けられている横断レールの先端に配置します。本リフトは自動的に起動ステーションと接触します。

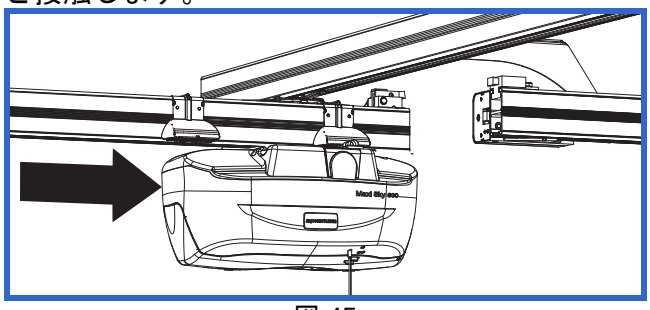


図 45

本リフトと横断レール両方をともに Y- 軸方向に移動して、横断レールと対向レールとを整列させます。この動作がゲートによって検出されると、2 つのレールは互いにロックされて、本リフトが通過できるようになります。

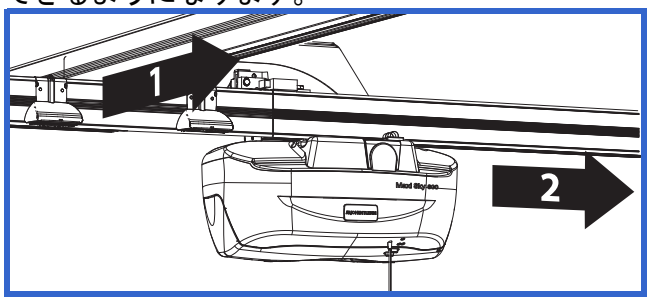


図 46

注記：この横断レールはロック状態に維持されます。横断レールのロックを解除するには、「ゲートへの進入」セクションを参照してください。

ゲートへの進入

X-Y システムに対向レールから入ると、横断レールは所定の位置には位置されます。本リフトにゲートを通過させます。

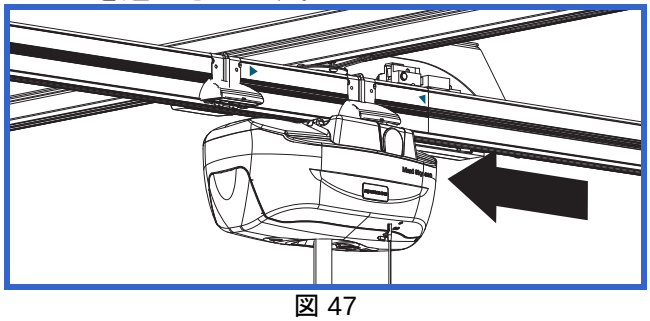


図 47

本リフトが解除ステーションを通過すると、ゲートは解除され、横断レールは Y- 軸方向に移動することができるようになります。

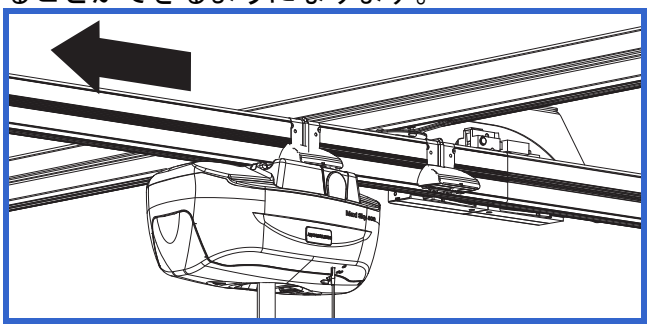


図 48

PPP 機能の使用（事前プログラム位置）

注記：この機能は有資格技術者だけが有効にすることができます。

1) 事前にプログラムした位置を使用することにより、本製品は、レール経路上のステーション（位置）を検出することができます。手元スイッチを使用することよって、本製品は指示された位置に移動します。
2) これを行うには、本製品に所望の移動先位置を指示します。たとえば 3 番目のステーションに移動させるには、PROG ボタンを 3 回押し、次いで方向を指定する（左または右ボタン）を押します。

そうすると、本製品は要求されたステーションに自動的に移動し、そこで保留状態を維持します。

要求した位置が正しくない場合には、任意の手元スイッチボタンを押すことによって、本リフトをいつでも停止させることができます。この位置から、新たな所望の位置に本リフトを再プログラムします。現位置からステーション数を数え、移動方向を指示します。

Maxi Sky 600 天井走行リフトのプログラム設定

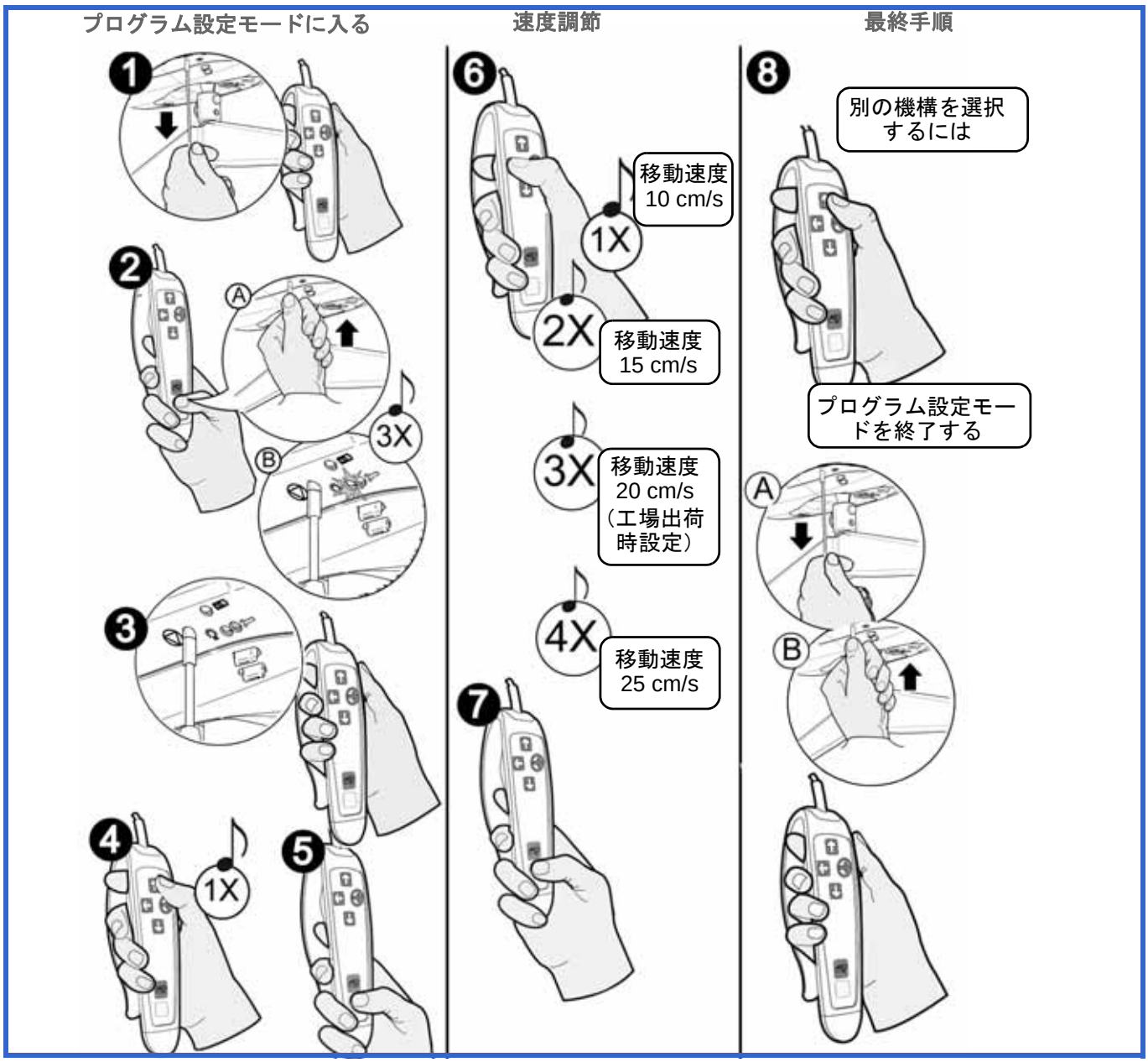


図 49

動作速度の変更

❶ 赤のコードを引くことによって本リフトの電源を切ります。緑の LED は消灯します。

❷ 手元スイッチ上の「PROG」ボタンを押します。同時に、プラスチックインサートのスイッチを押し上げます（赤外線手元スイッチ付きユニットの場合は、赤の緊急停止コードを再度引きます）。緑のランプが点滅し、ビープ音が 3 回鳴ります。

❸ 次いで赤の LED が点灯します。ここで、PROG ボタンから手を離すことができます。

❹「UP」ボタンを 1 回押し（ビープ音が 1 回鳴ります）、速度調節機能を呼び出します。

❺ ここで「PROG」ボタンを押して選択肢を確認します。

❻ 左ボタンを使用して、4 つの所定速度の 1 つを選択します。

❼ ここで「PROG」ボタンを押して選択した速度を確認します。

❽「UP」ボタンを押してプログラム設定モードを継続するか、または通常モードに戻るには、赤のコードを引いてからプラスチックインサートのスイッチを押し上げます（赤外線手元スイッチ付きユニットの場合は赤の緊急コードを再度引きます）。

Maxi Sky 600 天井走行リフトのプログラム設定

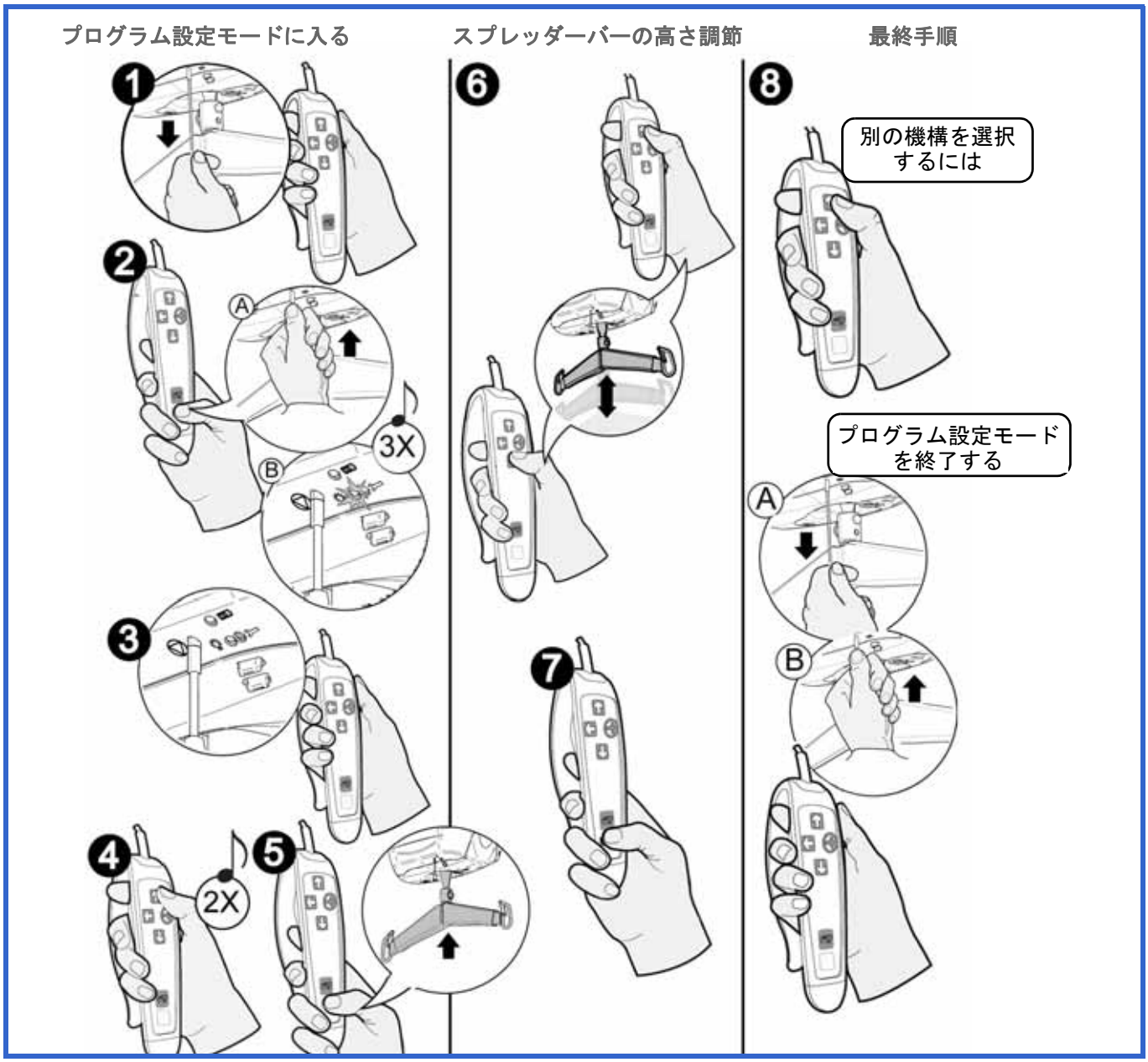


図 50

スプレッダーバーの高さ調整

❶ 赤のコードを引くことによって本リフトの電源を切ります。緑の LED は消灯します。

❷ 手元スイッチ上の「PROG」ボタンを押します。同時に、赤のコード上部にあるプラスチックインサートを押し上げることによって、本リフトの電源を入れます（赤外線手元スイッチ付きユニットの場合は、赤の緊急停止コードを再度引きます）。緑のランプが点滅し、ビープ音が 3 回鳴ります。

❸ 次いで赤の LED が点灯します。ここで、PROG ボタンから手を離すことができます。

❹「UP」ボタンを 2 回押して（ビープ音が 2 回鳴ります）、スプレッダーバー高さを変更します。

❺ ここで「PROG」ボタンを押して選択肢を確認します。

❻ ストラップは巻き上がり始めます。巻き上がりが完了したら、「UP」ボタンと「DOWN」ボタンを押して、充電ステーションにおけるスプレッダーバーの上昇高さを設定します。

❼ ここで「PROG」ボタンを押して選択した高さを確認します。

❽「UP」ボタンを押してプログラム設定モードを継続するか、または通常モードに戻るには、赤のコードを引いて本製品の電源を切ってからプラスチックインサートのスイッチを押し上げて電源を入れます（赤外線手元スイッチ付き製品の場合は赤の緊急コードを再度引きます）。

001.14150.33.JP rev. 16

Maxi Sky 600 天井走行リフトのプログラム設定

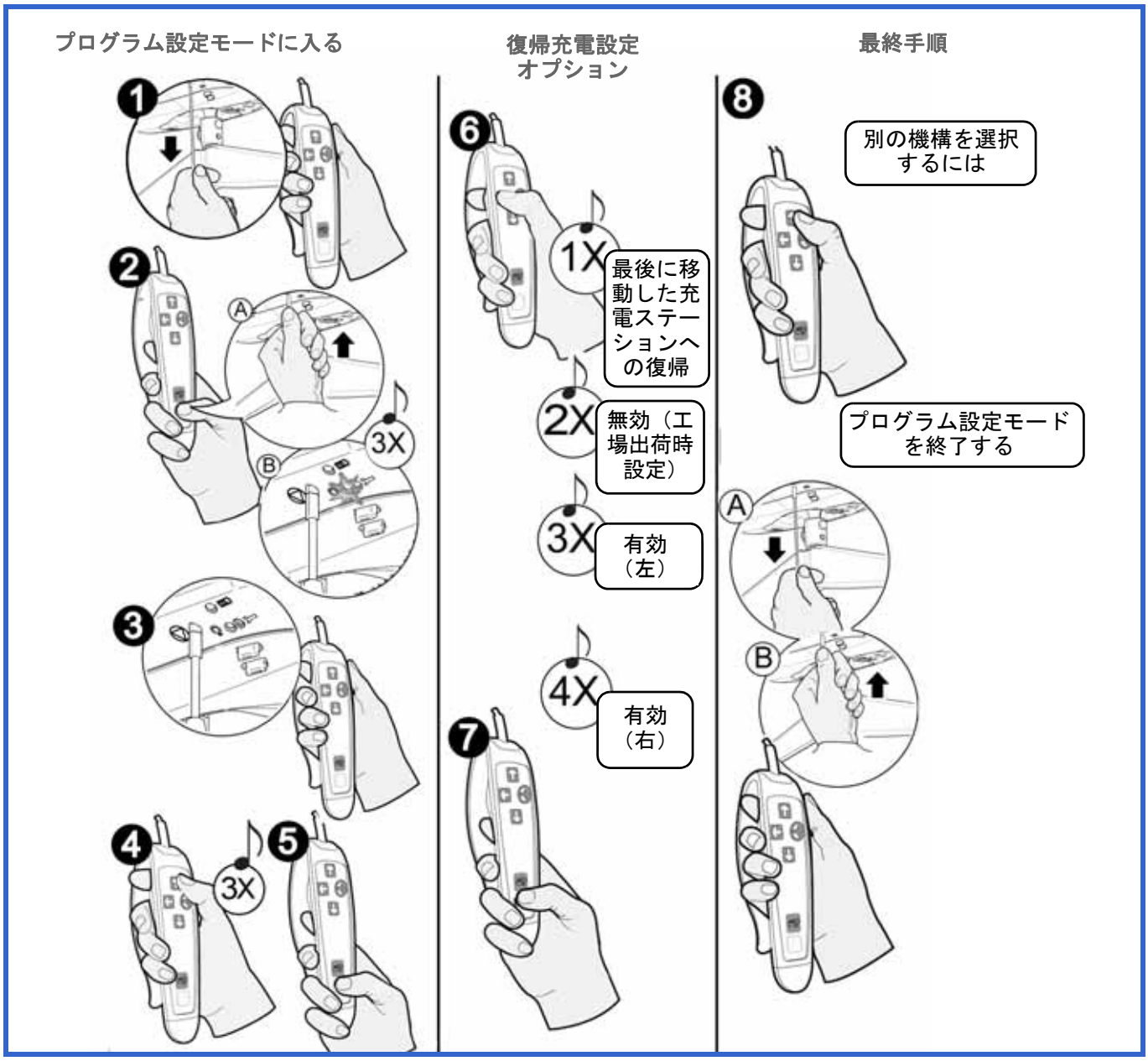


図 51

充電復帰（RTC）機能の有効化と無効化

❶ 赤のコードを引くことによって本リフトの電源を切ります。緑の LED は消灯します。

❷ 手元スイッチ上の「PROG」ボタンを押します。同時に、プラスチックインサートのスイッチを押し上げます（赤外線手元スイッチ付きユニットの場合は、赤の緊急停止コードを再度引きます）。緑のランプが点滅し、ビープ音が 3 回鳴ります。

❸ 次いで赤の LED が点灯します。ここで、PROG ボタンから手を離すことができます。

❹「UP」ボタンを 3 回押して（ビープ音が 3 回鳴ります）、RTC 機能を有効または無効にします。

❺ ここで「PROG」ボタンを押して選択肢を確認します。

❻ 左ボタンを使用して、4 つの所定選択肢の 1 つを選択します。

❼ ここで「PROG」ボタンを押して、選択した充電復帰を確認します。

❽「UP」ボタンを押してプログラム設定モードを継続するか、または通常モードに戻るには、赤のコードを引いてからプラスチックインサートのスイッチを押し上げます（赤外線手元スイッチ付きユニットの場合は赤の緊急コードを再度引きます）。

予防保守計画

本製品は損傷しやすいので、当初の製造基準内に保つため、以下の保守手順を指定時に行う必要があります。「保守・点検」は、以下の「予防保守計画」に従って行われなければなりません。

警告：以下のチェックリストに記載の保守は、メーカーが推奨する最低限度です。一部の場合では、より頻繁に点検を行う必要があります。定期的に検査することなく、あるいは不具合が見つかりながら、なお本製品を使用し続けると、ユーザーおよび患者の安全を著しく危険にさらすことになります。サービスおよび予防保全は製造メーカーに依頼が可能です。この取扱説明書で規定されている予防保守を行うことで、事故を防止するとともに、修理コストを低減させることができます。

警告：安全性に関連する保守と認定サービスは、ArjoHuntleigh による点検整備を依頼手順の完全な訓練を受け、適切な工具と部品リストとサービス取扱説明書を含む適切な文書を備えた有資格者が行ってください。これらの要件が満たされない場合は、人身事故および / または危険な製品の状態になる可能性があります。

ユーザー点検

リフトカセットおよびレールシステムの点検	周波数					
	初期	毎回の使用前	2 ヶ月ごと、または 500 サイクル	4 ヶ月ごと、または 1000 サイクル	1 年ごと、または 2500 サイクル	2 年ごと、または 5000 サイクル
外部損傷の形跡、欠損部品または破損パネルを点検する。	X	X				
エンドストッパーとレールキャップが所定の位置に取り付けられ、締め付けられていることを確認する。	X	X				
ストラップの摩耗、変色 または糸のほつれを点検する。		X				
バッテリーを再充電する。		X				
レール内の車輪を点検して、損傷、錆または亀裂がないことを確認する。損傷している場合は交換する。					X	
レールおよびクリップ式充電ステーションの接点を洗浄する。				X		
有資格者による総点検。					X	
緊急停止コードを検証する。				X		
緊急下降装置を確認する。				X		

保守・点検

スプレッダーバーとスリングの点検	周波数					
	初期	毎回の使用前	2ヶ月ごと、または500サイクル	4ヶ月ごと、または1000サイクル	1年ごと、または2500サイクル	2年ごと、または5000サイクル
すべてのスリング部品（取付具、布、縫い目部およびストラップ）を点検し、摩耗、変色、劣化または縫製糸のほつれの兆候がないことを確認する。		X				
タグに表示されている指示に従ってスリングを洗浄する。	必要時					
本リフトのストラップに付いているスプレッダーバーを点検して、損傷や亀裂がないことを確認する。すべての取付具が適切に固定されていることを必ず確認する（たとえば分割リング）。		X			X	

有資格技術者による点検

リフトカセットの点検	周波数					
	初期	毎回の使用前	2ヶ月ごと、または500サイクル	4ヶ月ごと、または1000サイクル	1年ごと、または2500サイクル	2年ごと、または5000サイクル
ストラップを交換する。						X
フレーム部品のインターロックおよび金具類を点検し、誤動作がないことを確認し、部品の欠損がないことを必ず確認する。					X	
ギアの摩耗を点検し、必要に応じて注油・潤滑する。					X	
接続部を点検して、適切に取り付けられていることを確認する（トロリーとスプレッダーバー）。					X	
ドラムの緊急ブレーキが異常なく自由に回転することを検証する。					X	
緊急ブレーキを検証する。					X	
緊急下降のメカニズムを検証する。					X	
カセット上の代替「UP」ボタンと代替「DOWN」ボタンを検証する。					X	
SWL（安全耐荷重）による荷重テスト。					X	

レール *KWIKtrak** の点検	周波数					
	初期	毎回の使用前	2 ヶ月ごと、または 500 サイクル	4 ヶ月ごと、または 1000 サイクル	1 年ごと、または 2500 サイクル	2 年ごと、または 5000 サイクル
エンドストッパーのトルクを 20 N. m.（15 lbf.ft）とする。	X				X	
ブラケットロック装置が露出されていないことを確認する。	X				X	
レール接合部が閉状態であること、およびスプリングピンが中央にあることを確認する。	X				X	
レールが無負荷状態で直線状であることを必ず確認する。	X				X	
リフトの調整済み負荷設定が取付時の定格荷重以下であることを確認する。	X				X	
付属品（ターンテーブルとエクスチェンジャー）が完全かつ適切に保守されていることをチェックする。	X				X	
取付具（天井ブラケット、壁柱、壁ブラケット）が置換されていないことを必ず確認する。	X				X	
レールエンドストッパーを点検する。ハードウェアを点検し（必要に応じて）締め付ける。					X	
推奨 SWL（安全耐荷重）での負荷テスト。					X	

*. *KWIKtrak* 以外のレールシステムの場合は、そのレールシステム・メーカーの注意事項を参照してください。

注記：本製品が正常に作動しない場合は、ただちに最寄の ArjoHuntleigh 代理店に連絡して、サポートを依頼してください。

保守・点検

本リフトの洗浄

注記：本リフトとその付属品は、各患者の使用後に洗浄することが推奨されます。

以下の目に見える残留物を取り除きます：

1) 水を含浸させた布を使用します。
2) 本リフトとその付属品の上から下までから目に見える残留物を取り除きます。

洗浄：

1) *Maxi Sky 600* とその付属品を洗浄するには、本製品上に洗浄液を噴霧し、ブラシでこすり洗いします（沈着・堆積物を取り除くため）。
2) 水で湿らせた清潔な布を使用して、すべての洗浄液をふきとります。
3) 手の届きにくい部分から洗浄液を取り除くことができない場合には、その部分に水をスプレーし、使い捨てタオル / 布でふきとります。すべての洗浄液を完全に取り除くまで、この手順を繰り返します。
4) 必要に応じて手順 1 ～ 3 を繰り返します。
5) 洗浄した部分を乾燥させてください。

注記：図 52 で指摘した箇所に特別な注意を払ってください。これらは、病原菌の温床となる可能性が最も高い箇所です。これらの箇所にアクセスするには、小型ブラシおよび / または綿棒を使用してください。

注意：本製品を水浸しにしないでください。これは電気部品を損傷させ、内部の腐食を引き起こす可能性があります。

熱風乾燥器を使用してリフトまたは設備機器を乾燥する場合は、その温度が 80°C（176 °F）を超えてはなりません。

石油ベース溶剤は、プラスチック部品を損傷させることがありますので、使用しないでください。

トロリーホイールの良好な接地面を確保するため、レールの内部を 4 ヶ月に 1 度洗浄してください。この洗浄は、湿らせた布を開口部に挿入し、レールの一端から他端までスライドさせることで行います。

***Maxi Sky 600* の特別洗浄箇所**

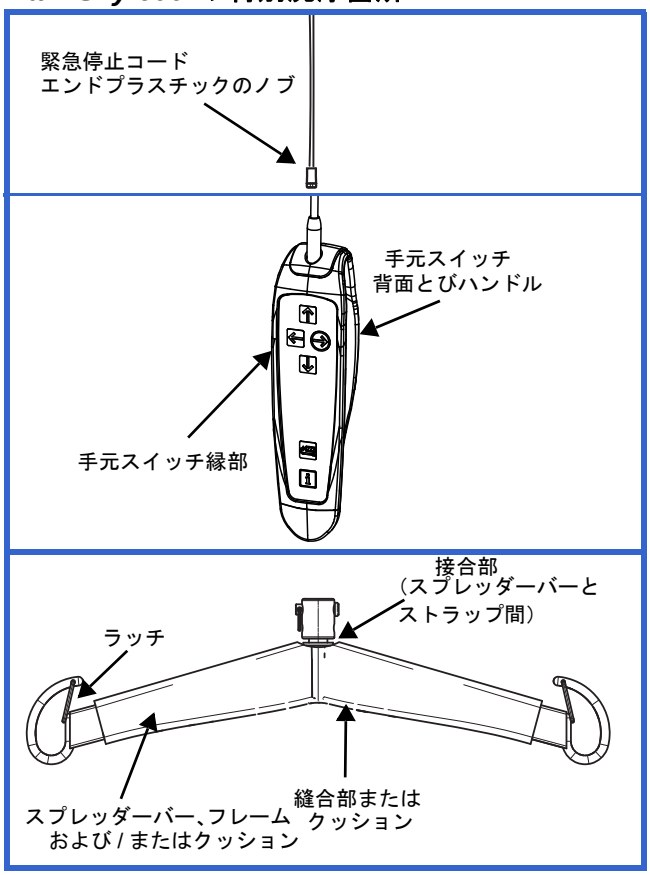


図 52

警告：目と皮膚の怪我を避けるため、洗浄剤と消毒剤はその注意事項に従って使用しなければなりません。消毒剤の取り扱い時には、適切な保護眼鏡、保護手袋、および保護服を常時着用してください。

ストラップの点検

ストラップが損傷している場合や、摩耗または変色の兆候が現れている場合、そのストラップ破断前の許容負荷が急速に低下する可能性があるので、患者または介助者にとって危険です。ArjoHuntleigh は、以下の通り、2 ヶ月ごとにストラップの徹底的な点検を行うようにお勧めします：

1) ストラップを完全に巻き戻します。
2) 摩耗または変色の兆候の有無を観察確認します（図 53 を参照）。

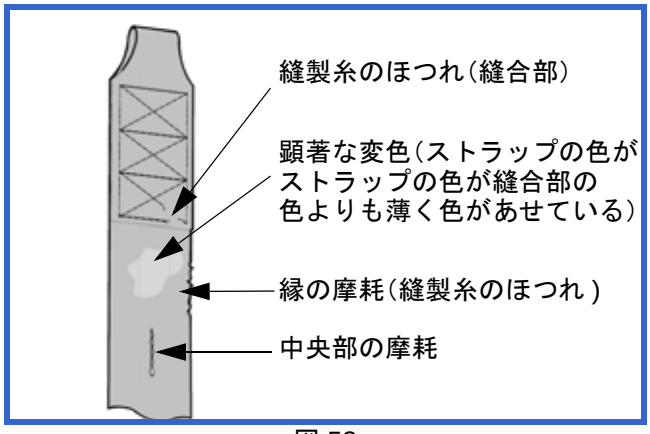


図 53

警告：上記のような摩耗の兆候、あるいは他の視認できる欠陥がある場合、そのストラップは有資格者が点検し、必要であれば交換しなくてはなりません。

損傷したストラップを交換せずにリフトを使用すると、介助者または患者の安全性に影響を与えることがあります。

注記：当メーカーは、少なくとも 2 年ごとにストラップを交換するようにお勧めします。

取り扱いと保管方法

リフトの輸送時には激しい衝撃を避けてください。

本リフトは、バッテリーの充電を行うことなく長期間にわたって保管しないでください。

注記：本リフトが使用されない場合でも、バッテリーの早期劣化を防止するため ArjoHuntleigh は、少なくとも 2 週間に 1 回はバッテリーを充電するようにお勧めします。

Maxi Sky 600 カセットを保管または出荷する前に、電源がオフ（緑のランプ点灯）になっていることを確認してください。

バッテリー交換

バッテリーを交換については、最寄の ArjoHuntleigh 代理店にお問い合わせください。

スリングの点検と管理

患者の安全性と衛生状態を最大限に確保するため、以下の以下の注意事項をお読みください：

定期点検

使用前には毎回必ず、スリング、そのストラップ、ループおよび取付クリップが入念に点検されることが必要不可欠です。スリング、ループまたはストラップの縫製糸がほつれたり、クリップが損傷している場合には、スリングの使用をただちに中止して、交換する必要があります。

スリングの洗浄

警告：スリングは使用の前後に必ず点検し、必要であれば、そのスリングに関する注意事項に従って洗浄するべきです。これは同じ器材を別の患者に使用する場合は特に重要です。また、これは交差感染のリスクを最小限に抑えます。

ヘッドレスト用ポケット付きスリングを洗浄する前に、必ず補強用プラスチックインサートを取り除いてください。スリングを再び使用する前に、必ずそのインサートを再びはめ込んでください。

洗浄・乾燥中の機械的圧力（転圧、押圧など）は、スリングの安全性を損ない、快適な操作に重要な部品を損傷する可能性があるため、避ける必要があります。

注記：洗浄に関しては、スリングはリンネルではなく、患者の移乗と持ち上げを行う機器の付属品とお考えください。スリングは、メーカーの注意事項に厳密に従って洗浄・消毒される必要があります。

年次点検

最小限の要件として、*Maxi Sky 600* リフトとその付属品は、ArjoHuntleigh の技術サービス員が 1 年に 1 回点検しなければなりません。

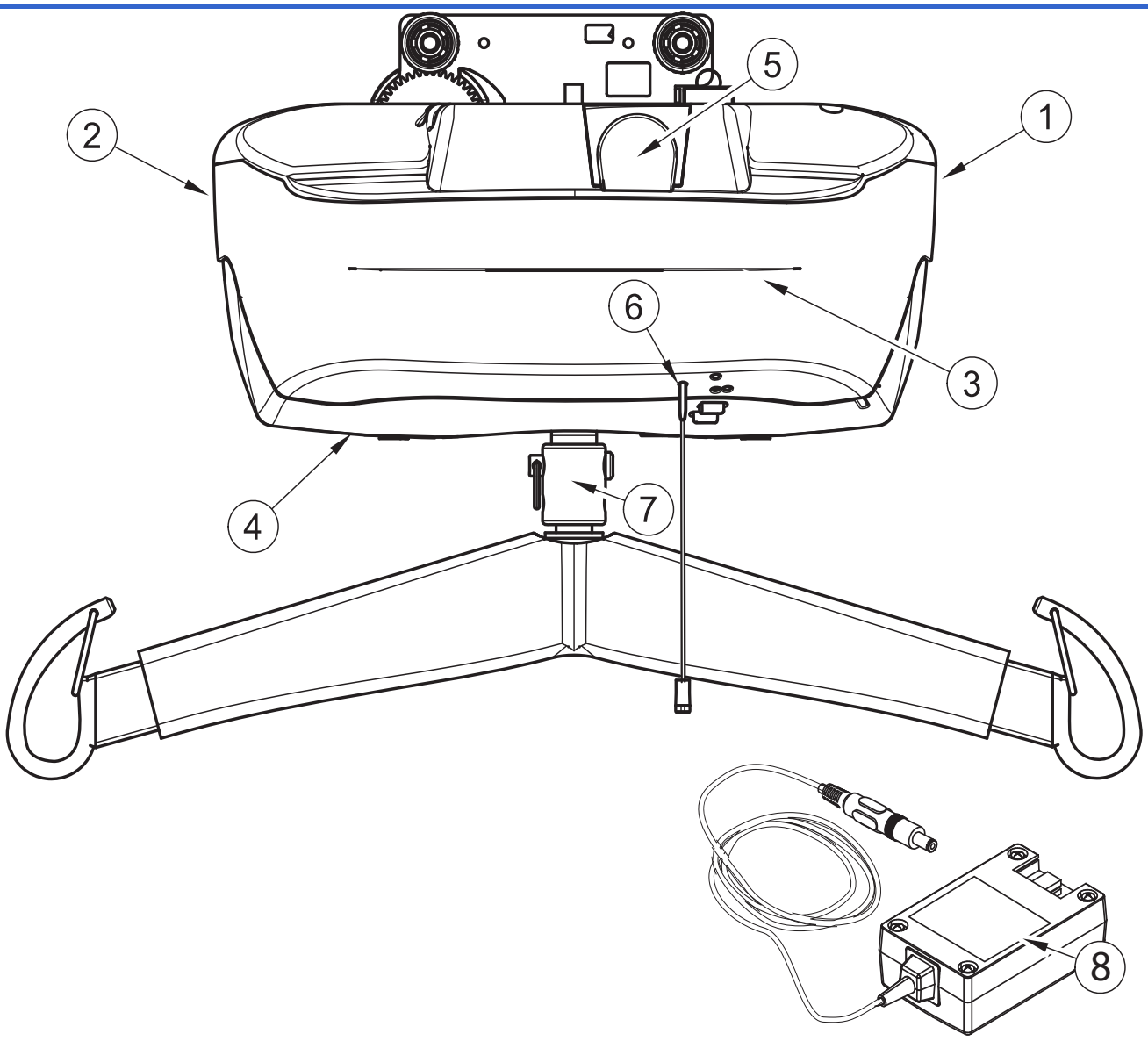
警告：定期点検を行わないと、本製品性能の低下のために、患者と介助者が危険にさらされることがあります。

トラブルシューティング

問題	チェック事項
赤の「サービス」ランプが点灯し、点滅している。	• 最寄の ArjoHuntleigh 代理店に連絡して、保守を依頼してください。
赤ランプが点灯している。	• リフトカセットが過熱保護下にあります。赤ランプが消灯するまで 10 ～ 30 分待機してから、「UP」ボタンを押してリフトカセットを再度使用します。
本製品が始動と停止を繰り返している。	• 負荷が安全耐荷重を超えている場合、モーターの過負荷保護のために本製品は作動しません。
リフトカセットが使用中にビープ音を発生する。本製品が患者の持ち上げ動作を出来なくなるが、患者を下降させることは依然として可能である。	• バッテリー残量が低下しています。リフトカセットを充電ステーションに復帰させてください。
本リフトが充電器に配置されていると、リフトカセットの充電インジケーター（黄）が点灯しない。	• 充電器のプラグが規格のコンセントに差し込まれていること、およびコンセントに電力が供給されていることをチェックしてください。クリップ式充電ステーションが機能している場合は、緑のランプが点灯します。
リフトカセットが、充電への復帰時に充電ステーション上のクリップを通過してしまうか、または誤った方向に移動してしまう。	• 充電ステーションの接触部分を中性洗剤で洗浄してください。手動でリフトカセットに充電ステーションを 1 回通過させ、次いで充電器復帰機能を再試行してください。
いつもわずか数回の患者移乗（3 ～ 5）後にバッテリーが切れてしまう。	• 本リフトの充電器と、クリップ式充電ステーション上の接触板を検証して、機能などに異常がないか確認してください。 • バッテリーを新しいものと交換してください。ご使用のバッテリーの寿命が来ている可能性があります。常に両方のバッテリーを同時に交換することが重要です。最寄の ArjoHuntleigh 代理店に連絡して、バッテリー交換を依頼してください。
本製品上の黄色のランプが点灯しているにもかかわらず、リフトカセットはわずか 1 ～ 2 回の移乗しか提供しない。	• 最寄の ArjoHuntleigh 代理店に連絡して、バッテリー交換を依頼してください。
本製品上の黄色のランプが点灯しているにもかかわらず、リフトは誰も乗せていないときにしか作動しない。人を乗せて移動を試みるとリフトが停止してしまう。	• 最寄の ArjoHuntleigh 代理店に連絡して、バッテリー交換を依頼してください。
手元スイッチのボタンを押してもリフトが作動しない。	• 充電ステーションのランプが点灯している場合は、本フトを移動して充電ステーションから離してから操作してください。 • 緊急停止が起動されている場合は、リセットスイッチのプラスチックインサートを静かに押し上げて、本製品の電源を入れてください（赤外線手元スイッチ付き製品の場合は、赤の緊急停止コードを再度引きます）。 • リフトカセット上のボタンが機能しているかどうかチェックしてください。動作していれば、問題は手元スイッチに起因しているかもしれません。機能していない場合は、本リフトの充電状態をチェックしてください。 • 本リフトをスライドさせてクリップ式充電ステーション上に移動してください。黄色のランプが点灯するかどうか検証してください。 • 上記のすべての点検後にも本リフトが動作しない場合は、最寄の ArjoHuntleigh 代理店にご連絡ください。

問題	チェック事項
リフトカセット上の充電ランプが継続して黄色に点滅し、本製品を一晩充電した後でさえも点灯状態にならない。	• 別のリフトからの別の統合型クリップ式充電ステーションまたは予備の充電ステーションが利用可能な場合、それをレールにクリップして本製品を約 3 時間充電してみてください。黄色のランプが依然として点滅を続ける場合、最寄の ArjoHuntleigh 代理店にご連絡ください。 • 上記のすべての点検後にも本リフトが動作しない場合は、最寄の ArjoHuntleigh 代理店にご連絡ください。
リフトをその充電器（4- 方向モーターのみ）に復帰させるボタンを押すと、リフトが充電器を通過してしまう。	• 充電器が電気コンセントに正しく差し込まれていないか、適切に作動していないかのいずれです。最寄の ArjoHuntleigh 代理店にご連絡ください。
ECS：カセット LED バッテリーインジケーターが点灯しない。	• 赤のコードのプラスチックインサートを押してリフトカセットの電源を入れてください（赤外線手元スイッチ付きユニットの場合は、を引きます赤の緊急停止コード）。 • 電気コンセントに電力が供給されていることを検証してください。 • 本充電器が固定レール上の ECS ケーブルアダプタに接続されていることを検証してください。 • 使用されているすべての延長コードが接続されていることを検証してください。 • 最寄の ArjoHuntleigh 代理店にご連絡ください。

本製品上のラベル



1) 最大容量 / サービス電話番号
2) 製造日、シリアル番号、製品コード / メーカーの ID
3) 製品名
4) 移動方向インジケーター
5) 緊急下降システムへのアクセス ID
6) 緊急停止 ID
7) SWL ラベル
8) 充電器情報

図 54

技術仕様

製品情報	*Maxi Sky 600*
全重量（4-機能モデル）	12.7 kg（12.70 kg）
全重量（2-機能モデル）	11.4 kg（25 lb）
持ち上げ能力	200 kg（440 lb）、272 kg（600 lb）
ストラップ長	2,300 mm（230.12 cm）
持ち上げ速度	6.0 cm/s（2.4 in/s）（無負荷時） 3.5 cm/s（1.4 in/s）：200 kg（440 lb）（負荷時）
最大ストローク（天井から）	2,300 mm（230.12 cm）
水平方向の変位（移動）速度	10、15、20 および 25 cm/s。速度はデフォルトで 20 cm/s（7.9 in/s）
水平方向軸モーター	24 VDC、62 watts
垂直方向軸モーター	24 VDC、110 watts
移乗の操作力	< 5 N
電気仕様	
デューティサイクル	最大 10%（6 min./ 時）、1 分間連続
定格	24 VDC、15 A 最大
負荷 / 無負荷での昇降時のノイズレベル	61 dBA（最大）
医療機器	IEC 60601-1 に基づく感電に対する BF 型保護。
Maxi Sky 600 は以下の規格に準拠しています：CAN/CSA C22.2 No. 601.1（SUP1+AM2）、UL 60601 1、CAN/CSA-C22.2 No. 60601-1-08、ANSI/AAMI ES60601-1:2005 および ISO 10535:2006.	
警告：*Maxi Sky 600* 無線ホームネットワーク装置、携帯電話、コードレス電話およびその基地局、トランシーバーなどの無線通信機器は、に影響を与えることがあるため、少なくとも 2.3 m の間隔を置いて配置する必要があります。電磁界の潜在的に 強力な源からのケーブルを、本製品近くに置くべきではありません。	
バッテリーの種類	充電式・制御弁式（密閉形）鉛蓄電池 定格：2 x 12 V（直列接続、合計 24 V）、5 Ah
バッテリー容量	100 kg（220 lb）負荷にて最高移乗回数 120 回、200 kg（440 lb）負荷で最高移乗回数 70 回
保護等級 - 手元スイッチ	IPX7
保護等級 - *Maxi Sky 600*	IP21
リフト - 保護クラス - 感電防止	内部電源機器
バッテリー充電器入力	100-240 VAC、50-60 Hz、57 - 70 VA または 100-240 VAC、50-60 Hz、50 VA（充電器ラベル表示を参照）
バッテリー充電器出力	28.1 VDC、1 A（最大）、28.1 VA または 24 VDC、1 A（最大）、24 VA（充電器ラベル表示を参照）
バッテリー充電器の安全保護	クラス 2、二重絶縁
操作条件と保管条件	
周囲温度範囲	**操作**：5 ～ 40 °C **保管**：-25 ～ + 70°C
相対湿度範囲	**操作**：15% ～ 93% **保管**：< 94%、結露なし
大気圧範囲	**操作**：700 hPa ～ 1060 hPa（2000 m（最大）） **保管**：500 hPa ～ 1060 hPa
警告：本製品は、空気や酸素、または亜酸化窒素との可燃性麻酔薬混合ガスの近くでの使用に適していません。	
リサイクル	
バッテリー	密閉形鉛蓄電池、充電式、リサイクル可能
梱包	段ボールリサイクル可能
本リフト	欧州指令 2002/96/EG（WEEE）に基づいて分別およびリサイクルしてください。

技術仕様

リフト寸法

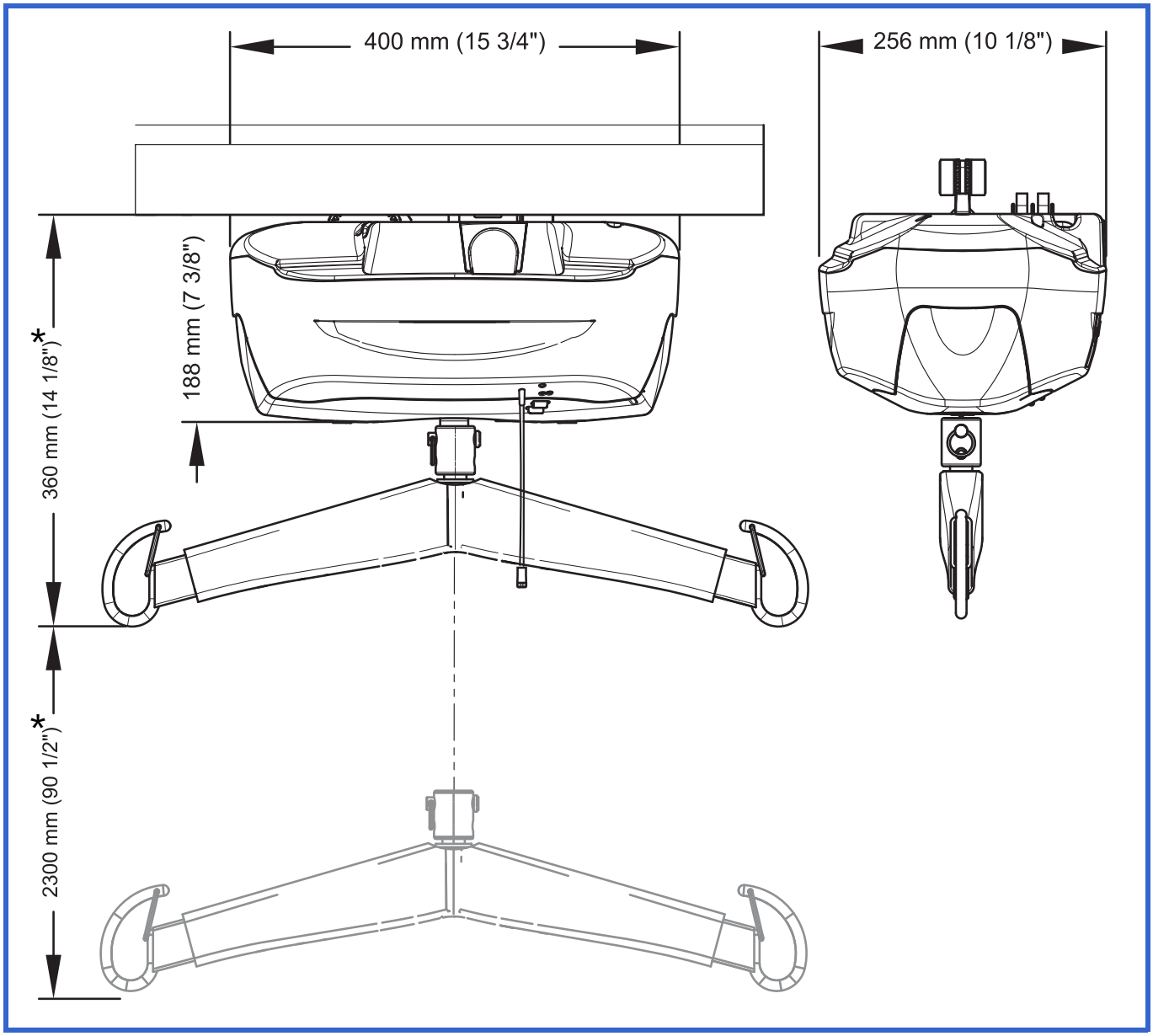


図 55

電磁環境適合性

Maxi Sky 600 は、外部環境から EMI（電磁干渉）を遮断する能力に関して、現行の規制基準への準拠がテストされています。

しかしながら、一部の手順は電磁干渉の軽減に役立ちます。

- 本製品の適切な機能を損なう可能性がある放射の増加あるいは耐性の減少を回避するため、ArjoHuntleigh のケーブルおよび補修部品だけを使用してください。
- 患者のモニタリングおよび / または生命維持領域の他の装置が、認められた電磁気放射基準に準拠していることを確実にします。
- 電子医療装置間の距離を最大にしてください。高周波・高出力デバイスは本リフトに影響を与える可能性がある EMI を発生することがあります。本取扱説明書で後述する分離距離表を参照してください。

本製品の RF（無線周波数）電磁環境をどう管理するかについての詳しい情報は、*AMI TIR 18-1997 - Guidance on Electromagnetic Compatibility of Medical Devices for Clinical/Biomedical Engineers（臨床技師 / 医用生体技師のための医療装置の電磁環境両立性に関するガイダンス）を参照してください。*

電磁放射線

ガイダンスおよびメーカーの宣言 - 電磁エミッション - 全機器およびシステム用		
Maxi Sky 600 は以下に示される電磁環境での使用を目的としています。*Maxi Sky 600* のお客様またはユーザーは、本製品がこの様な環境下で使用出来ることを確認しなければなりません。		
放射性テスト	**準拠**	**電磁環境 - ガイダンス**
RF 放射 C ISPR 11	グループ 1	*Maxi Sky 600* は RF エネルギーをその内部機能のためにのみ使用します。したがって、その RF 放射はきわめて低く、近隣の電子機器を妨害する可能性は殆どありません。
RF 放射 C ISPR 11	クラス B	*Maxi Sky 600* は、家庭用施設、および家庭用に使われる建物に供給する公共低電圧電力供給ネットワークに直接接続されたものを含む、あらゆる施設での使用に適しています。
高調波放射	適用せず	
電圧変動 / フリッカ放射 IEC 61000-3-3	適用せず	

電磁環境両立性

電磁環境耐性

ガイダンスおよびメーカーの宣言 - 電磁環境耐性 - 全機器およびシステム用			
Maxi Sky 600 は以下に特定される電磁環境での使用を目的としています。*Maxi Sky 600* のお客様またはユーザーは、本製品がこの様な環境下で使用出来ることを確認しなければなりません。			
耐性テスト	**IEC 60601 テストレベル**	**準拠レベル**	**電磁環境 - ガイダンス**
静電気放電（ESD） IEC 61000-4-2	±6 kV 接触 ±8 kV 空中	±6 kV 接触 ±15 kV 空中	床は木製、コンクリート、またはセラミックタイル環境にて使用してください。床が合成材で覆われている場合、相対湿度は少なくとも 30% でなければなりません。
過負荷電流 / 爆発 IEC 61000-4-5	±2 kV 電源ライン用 ±1 kV 入出力ライン用	適用せず	主電源の品質は一般商用または病院環境内の典型的な場所と同じ特性レベルである必要があります。
サージ IEC 61000-4-5	±1 kV 差異モード ±2 kV 入出力用	適用せず	
配電線の電圧降下、電力降下、および電圧変動 IEC 61000-4-11	<5% *UT* （>95% 降下、*UT*） 0.5 サイクル用 40% *UT* （60% 降下、*UT*） 5 サイクル用 70% *UT* （30% 降下、*UT*） 25 サイクル用 <5% *UT* （>95% 降下、*UT*） 5 秒用	適用せず	
電源周波数（50/60 Hz）磁場	3 A/m	3 A/m	電力周波数磁場は、一般商用または病院環境での典型的な場所と同じ特性レベルにしてください。
注記：*UT* は、テストレベルの適用前における AC 電源電圧です。			

（続く）

ガイダンスおよびメーカーの宣言 - 電磁環境耐性 - 非生命維持装置用			
耐性テスト	**IEC 60601 テストレベル**	**準拠レベル**	**電磁環境 - ガイダンス**
伝導性 RF IEC 61000-4-6	3 Vrms 150 kHz ～ 80 Mhz	適用せず	携帯および移動型 RF 通信機器は、ケーブルを含めて *Maxi Sky 600* のどの部分からも、送信器の周波数に適用される方程式から算出された推奨分離距離以上に離して使用する必要があります。 推奨分離距離 $d = \left[\frac{3.5}{V1}\right]\sqrt{P}$
放射性 RF IEC 61000-4-3	3 V/m 80 MHz ～ 2.5 GHz	10 V/m 80 MHz ～ 2.5 GHz	$d = \left[\frac{3.5}{10}\right]\sqrt{P}$ 80 MHz ～ 800 MHz $d = \left[\frac{7}{10}\right]\sqrt{P}$ 800 MHz ～ 2.5 GHz *P* が通信機メーカーによる通信機の最大出力定格ワット数（W）で、*d* が推奨分離距離（メートル）のとき。 電磁実地調査で測定される固定 RF 通信機からの電界強度で、(a) は各周波数範囲の準拠レベルより小さくなければなりません。(b) 以下の記号が記された機器の近くでは、干渉が生じる可能性があります。

注記 1：80 MHz と 800 MHz では、より高い周波数が適用されます。
注記 2：これらのガイドラインはすべての状況にあてはまるわけではありません。電磁伝搬は構造物、対象物および人体による吸収および反射に影響されます。

（a）たとえば無線（携帯 / コードレス）電話および陸上移動無線、アマチュアラジオ、AM と FM ラジオ放送およびテレビ放送の基地局などのような固定送信機からの電界強度は、理論的には正確に予測できません。固定 RF 通信機による電磁環境を評価するためには、電磁環境調査を考慮すべきです。*Maxi Sky 600* が使用される場所における測定電界強度が適用 RF 準拠レベルを超える場合は、*Maxi Sky 600* を観察し、通常操作を確認する必要があります。異常が見受けられるときは、*Maxi Sky 600* の再設定や移設など追加の措置が必要なこともあります。

（b）周波数範囲 150 kHz ～ 80 MHz 以上では、強度は 3 V/m 以下にしてください。

電磁環境両立性

（続く）

携帯 / 移動型 RF 通信機器と *Maxi Sky 600* との間の推奨分離距離 - 以下のような機器およびシステムではないシステム用			
携帯 / 移動型 RF 通信機器と *Maxi Sky 600* との間の推奨分離距離。			
Maxi Sky 600 は放射 RF の妨害が制御されている電磁環境での使用を目的としています。*Maxi Sky 600* の顧客またはユーザーは、携帯および移動型 RF 通信機器（通信機）と *Maxi Sky 600* との最小距離を、通信機器の最大出力に基づいて以下に推奨されるように維持することにより、電磁波障害を防ぐことができます。			
通信機の定格最大出力 W	**通信機の周波数に基づく分離距離 m**		
	150 kHz ～ 80 MHz $d = \left[\frac{3.5}{V1}\right]\sqrt{P}$	80 MHz ～ 800 MHz $d = \left[\frac{3.5}{10}\right]\sqrt{P}$	800 MHz ～ 2.5 GHz $d = \left[\frac{7}{10}\right]\sqrt{P}$
0.01	適用せず	0.12	0.23
0.1	適用せず	0.38	0.73
1	適用せず	1.2	2.3
10	適用せず	3.8	7.3
100	適用せず	12	23
上記リストにない最大出力が定格の通信機については、推奨される分離距離 *d*（単位 m）は、*P* が通信機メーカーによる通信機の最大出力定格（単位 W) である、通信機の周波数に適用される方程式を用いて推定することができます。 注記 1：80 MHz と 800 MHz では、より高い周波数範囲の分離距離が適用されます。 注記 2：これらのガイドラインはすべての状況にあてはまるわけではありません。電磁伝搬は構造物、対象物および人体による吸収および反射に影響されます。			

AUSTRALIA
ArjoHuntleigh Pty Ltd
78, Forsyth Street
O'Connor
AU-6163 Western Australia
Tel: +61 89337 4111
Free: +1 800 072 040
Fax: + 61 89337 9077

BELGIQUE / BELGIË
ArjoHuntleigh NV/SA
Evenbroekveld 16
BE-9420 ERPE-MERE
Tél/Tel: +32 (0) 53 60 73 80
Fax: +32 (0) 53 60 73 81
E-mail: info.belgium@arjohuntleigh.be

BRASIL
Maquet do Brasil
Equipamentos Médicos Ltda
Rua Tenente Alberto Spicciati, 200
Barra Funda, 01140-130
SÃO PAULO, SP - BRASIL
Fone: +55 (11) 2608-7400
Fax: +55 (11) 2608-7410

CANADA
ArjoHuntleigh
90 Matheson Boulevard West
Suite 300
CA-MISSISSAUGA, ON, L5R 3R3
Tel/Tél: +1 905 238 7880
Free: +1 800 665 4831 Institutional
Free: +1 800 868 0441 Home Care
Fax: +1 905 238 7881
E-mail: info.canada@arjohuntleigh.com

ČESKÁ REPUBLIKA
ArjoHuntleigh s.r.o.
Hlinky 118
CZ-603 00 BRNO
Tel: +420 549 254 252
Fax: +420 541 213 550

DANMARK
ArjoHuntleigh A/S
Vassingerødvej 52
DK-3540 LYNGE
Tel: +45 49 13 84 86
Fax: +45 49 13 84 87
E-mail: dk_kundeservice@arjohuntleigh.com

DEUTSCHLAND
ArjoHuntleigh GmbH
Peter-Sander-Strasse 10
DE-55252 MAINZ-KASTEL
Tel: +49 (0) 6134 186 0
Fax: +49 (0) 6134 186 160
E-mail: info-de@arjohuntleigh.com

ESPAÑA
ArjoHuntleigh Ibérica S.L.
Ctra. de Rubí, 88 1ª planta - A1
08173 Sant Cugat del Vallés
ES- BARCELONA 08173
Tel: +34 93 583 11 20
Fax: +34 93 583 11 22
E-mail: info.es@arjohuntleigh.com

FRANCE
ArjoHuntleigh SAS
2 Avenue Alcide de Gasperi
CS 70133
FR-59436 RONCQ CEDEX
Tél: +33 (0) 3 20 28 13 13
Fax: +33 (0) 3 20 28 13 14
E-mail: info.france@arjohuntleigh.com

HONG KONG
ArjoHuntleigh (Hong Kong) Ltd
1510-17, 15/F, Tower 2
Kowloon Commerce Centre
51 Kwai Cheong Road
Kwai Chung
HONG KONG
Tel: +852 2207 6363
Fax: +852 2207 6368

INTERNATIONAL
ArjoHuntleigh International Ltd
ArjoHuntleigh House
Houghton Hall Park
Houghton Regis
UK-DUNSTABLE LU5 5XF
Tel: +44 (0) 1582 745 800
Fax: +44 (0) 1582 745 866
E-mail: international@arjohuntleigh.com

ITALIA
ArjoHuntleigh S.p.A.
Via Giacomo Peroni 400-402
IT-00131 ROMA
Tel: +39 (0) 6 87426211
Fax: +39 (0) 6 87426222
E-mail: Italy.promo@arjohuntleigh.com

MIDDLE EAST
ArjoHuntleigh ME
Office G005 - Nucleotide Complex,
Dubiotech & Research Park,
P.O.Box 214742, Dubai,
United Arab Emirates
Tel: +971 (0)4 447 0942
E-mail: international@arjohuntleigh.com

NEDERLAND
ArjoHuntleigh Nederland BV
Biezenwei 21
4004 MB TIEL
Postbus 6116
4000 HC TIEL
Tel: +31 (0) 344 64 08 00
Fax: +31 (0) 344 64 08 85
E-mail: info.nl@arjohuntleigh.com

NEW ZEALAND
ArjoHuntleigh Ltd
41 Vestey Drive
Mount Wellington
NZ-AUCKLAND 1060
Tel: +64 (0) 9 573 5344
Free Call: 0800 000 151
Fax: +64 (0) 9 573 5384
E-mail: nz.info@ArjoHuntleigh.com

NORGE
ArjoHuntleigh Norway AS
Olaf Helsets vei 5
N-0694 OSLO
Tel: +47 22 08 00 50
Faks: +47 22 08 00 51
E-mail: no.kundeservice@arjohuntleigh.com

ÖSTERREICH
ArjoHuntleigh GmbH
Dörrstrasse 85
AT-6020 INNSBRUCK
Tel: +43 (0) 512 204 160 0
Fax: +43 (0) 512 204 160 75

POLSKA
ArjoHuntleigh Polska Sp. z o.o.
ul. Ks Piotra Wawrzyniaka 2
PL-62-052 KOMORNIKI (Poznan)
Tel: +48 61 662 15 50
Fax: +48 61 662 15 90
E-mail: arjo@arjohuntleigh.com

PORTUGAL
ArjoHuntleigh em Portugal
MAQUET Portugal, Lda. (Distribudor Exclusivo)
Rua Poeta Bocage n.º 2 - 2G
PT-1600-233 Lisboa
Tel: +351 214 189 815
Fax: +351 214 177 413
E-mail: Portugal@arjohuntleigh.com

SUISSE / SCHWEIZ
ArjoHuntleigh AG
Fabrikstrasse 8
Postfach
CH-4614 HÄGENDORF
Tél/Tel: +41 (0) 61 337 97 77
Fax: +41 (0) 61 311 97 42

SUOMI
Oy Vestek AB
Martinkuja 4
FI-02270 ESPOO
Puh: +358 9 8870 120
E-mail: info@vestek.fi

SVERIGE
ARJO Scandinavia AB
Hans Michelsensgatan 10
SE-211 20 MALMÖ
Tel: +46 (0) 10 494 7760
Fax: +46 (0) 10 494 7761
E-mail: kundservice@arjohuntleigh.com

UNITED KINGDOM
ArjoHuntleigh UK
ArjoHuntleigh House
Houghton Hall Park
Houghton Regis
UK-DUNSTABLE LU5 5XF
Tel: +44 (0) 1582 745 700
Fax: +44 (0) 1582 745 745
E-mail: sales.admin@arjohuntleigh.com

USA
ArjoHuntleigh Inc.
2349 W Lake Street Suite 250
US-Addison, IL 60101
Tel: +1 630 307 2756
Free: +1 800 323 1245 Institutional
Free: +1 800 868 0441 Home Care
Fax: +1 630 307 6195
E-mail: us.info@arjohuntleigh.com

REV 17: 03/2016

GETINGE GROUP

Getinge Group is a leading global provider of products and systems that contribute to quality enhancement and cost efficiency within healthcare and life sciences. We operate under the three brands of **ArjoHuntleigh**, **Getinge** and **Maquet**. **Getinge** provides solutions for infection control within healthcare and contamination prevention within life sciences. **Maquet** specializes in solutions, therapies and products for surgical interventions, interventional cardiology and intensive care.

ARJOHUNTLEIGH
GETINGE GROUP

ArjoHuntleigh focuses on patient handling and hygiene, disinfection, DVT prevention, medical beds, therapeutic surfaces and diagnostics.

ArjoHuntleigh AB
Hans Michelsensgatan 10
211 20 Malmö, Sweden
www.arjohuntleigh.com

CE

001.14150-33-J